日本の心を世界に伝える
Conveying the Spirit of Japan

第18回

文化庁文化交流使フォーラム

文化庁文化交流使
活動報告会

The 18th Japan Cultural Envoy Forum

報　告　書

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

第18回

文化庁文化交流使フォーラム

文化庁文化交流使活動報告会

The 18th Japan Cultural Envoy Forum

報 告 書

— 日本の心を世界に伝える —

Conveying the Spirit of Japan

目　次

文化交流使事業概要　P.2

第 18 回文化庁文化交流使フォーラム議事録　P.5

活動報告

- プロフィール　P.18
- 黒田 鈴尊　P.20
- 清水 利仲　P.22
- 田村 圭吾　P.24
- 中村 京蔵　P.26
- 三谷 純　P.28
- 森 隆宏　P.30

文化庁文化交流使一覧　P.33

文化交流使事業概要　Overview

令和元年度　FY2019

Photo by Ayane Shindo

1 黒田 鈴尊　KURODA Reison

尺八奏者

活動期間　2019 年 5 月 30 日～ 7 月 28 日
活動国　中国，イタリア，ブラジル，フランス，ドイツ，ポルトガル

2 清水 利仲　SHIMIZU Toshinaka

両口屋菓匠　取締役顧問

活動期間　2019 年 6 月 15 日～ 7 月 15 日
活動国　スペイン，フランス，ドイツ

5 三谷 純　MITANI Jun

筑波大学　教授

活動期間　2019 年 10 月 27 日～ 12 月 22 日
活動国　中国，フィリピン，マレーシア，バングラデシュ，インド，タイ，ミャンマー，ベトナム

6 森 隆宏　MORI Takahiro

盆栽師

活動期間　2019 年 7 月 17 日～ 9 月 14 日
活動国　カナダ，アメリカ，オーストラリア，シンガポール

文化庁では，芸術家，文化人等，文化に関わる方々を一定期間「文化交流使」に指名し，世界の人々の日本文化への理解の深化につながる活動や，外国の文化人とのネットワークの形成・強化につながる活動を展開しています。文化交流使は，諸外国に一定期間（1か月～12か月間）滞在し，それぞれの専門分野で講演，講習や実演，デモンストレーションなどを行います。

令和元年度までに，伝統音楽や舞台芸術，生活文化やポップカルチャーといった多様な分野で活躍する芸術家，文化人等，延べ143人と，26組（団体）を88か国へ派遣しています。令和元年度は，下記の芸術家，文化人等を「文化交流使」に指名しました。

Since 2003, the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan has sent artists and other cultural figures abroad to serve as "Japan Cultural Envoys," with a view to deepening the international community's understanding towards Japanese culture, and to forming and strengthening networks with people around the world active in the cultural arena. The Envoys stay in one or more countries for a specified period (between one month and one year) where they conduct lectures, courses, demonstrations or other activities in their cultural fields.

By the end of fiscal year 2019, a total of 143 individuals, and 26 groups specializing in various fields such as traditional music, performing arts, culture and lifestyle, and pop culture has been sent to 88 countries. The following artists and cultural specialists were appointed as Japan Cultural Envoys in FY2019.

3 田村 圭吾　TAMURA Keigo

京料理　萬重若主人，全国芽生会連合会　監事

活動期間　2019年8月26日～10月4日
活動国　ニュージーランド，エルサルバドル，ハンガリー，北マケドニア，レバノン，アラブ首長国連邦

4 中村 京蔵　NAKAMURA Kyozo

歌舞伎俳優

活動期間　2019年11月5日～12月4日
活動国　アメリカ，キューバ，メキシコ

第18回 文化庁文化交流使フォーラム
議事録

2021年3月10日［水］ 14：00 〜16：40

会場　イイノホール（ライブ配信）

Wednesday, March 10, 2021 from 2:00 PM to 4:40 PM
Iino Hall

プログラム

Program

《第1部／Part I 》

14:00	オープニングアクト（中村 京蔵）	Opening Act by NAKAMURA Kyozo
14:10	開会挨拶（文化庁長官 宮田 亮平）	Opening Remarks by MIYATA Ryohei, Commissioner for Cultural Affairs
14:15	《活動報告》	Presentations by Japan Cultural Envoys
	黒田 鈴尊 尺八奏者	KURODA Reison Shakuhachi Player
	清水 利仲 両口屋菓匠　取締役顧問	SHIMIZU Toshinaka Ryouguchiya Kasyo, Director of Executive Adviser
	森 隆宏 盆栽師	MORI Takahiro Bonsai Master
15:15	休憩	Intermission

《第2部／Part II 》

15:30	《活動報告》	Presentations by Japan Cultural Envoys
	田村 圭吾 京料理　萬重若主人，全国芽生会連合会　監事	TAMURA Keigo Kyoto Cuisine Manshige, Junior Owner and The Zenkoku Mebaekai Rengokai (Junior Traditional Japanese Cuisine Restaurant Association) Supervising Inspector
	三谷 純 筑波大学　教授	MITANI Jun Professor of University of Tsukuba
	中村 京蔵 歌舞伎俳優	NAKAMURA Kyozo Kabuki Actor
16:30	エンディングアクト（黒田 鈴尊）	Ending Act by KURODA Reison
16:40	終了	Closing

モデレータープロフィール

鶴田 真由　女優

1988年女優デビュー。その後，ドラマ，映画，舞台，CMと幅広く活動。1996年には『きけ，わだつみの声』で日本アカデミー賞優秀助演女優賞を受賞。近年はドラマ『マルモのおきて』『酔いどれ小籐次』『株価暴落』『犯罪症状群』『日本ボロ宿紀行』，映画『さよなら渓谷』『64-ロクヨン』『DESTINY鎌倉ものがたり』『海を駆ける』『日日是好日』など話題作に出演。旅番組，ドキュメンタリー番組への出演も多く，番組出演がきっかけで，2008年第4回アフリカ開発会議（TICAD Ⅳ）の親善大使に就任。

中村京蔵氏によるオープニングアクト

開会挨拶（ビデオメッセージ）

宮田 亮平

文化庁長官

文化交流使事業は「日本の心を世界に伝える」をテーマに，トップレベルの芸術家や文化人の方々に文化交流使として，世界各国でさまざまな活動をしていただく事業です。本日は，令和元年度に文化交流使として活動された６名の方々に，国際文化交流の最前線でのご経験を語っていただきます。

私もかつてドイツに留学し，海外の文化に触れると同時に日本文化の素晴らしさを知り，それをきっかけにイルカをモチーフにした最初の作品『シュプリンゲン』の制作を始めました。文化交流使の皆様にはどのような出会いがあり，日本文化がどう評価され，今後の活動にどう生きるのかをお聞きするのが，大変楽しみです。

日本文化の発信のためご活躍いただいた文化交流使の皆様に改めて感謝申し上げるとともに，外務省，国際交流基金をはじめ本事業にご協力いただいた全ての皆様に御礼申し上げます。

宮田文化庁長官による開会挨拶

鶴田真由氏による挨拶

鶴田 真由

モデレーター

今まさにコロナ禍にあり，依然，緊急事態宣言中の本日は，無観客での報告会となりました。過去をさかのぼると，ペストが起こった後にルネッサンスがやってきました。ペストの流行で大学が休校となり，故郷に戻ったニュートンは，りんごの木からりんごが落ちるのを見て，膝を打ったといいます。万有引力の法則の発見です。ニュートンはその後，この自粛期間のことを「創造的休暇」と呼んでいたそうです。

今この時代に，文化・芸術に携わる人々が何を感じ，何を想像するのか。とても大切な時のように思います。自然の営みに対し，繊細な感覚を持つ日本人の感性は，今後ますます見直されていくのではないでしょうか。本日は，そんな日本人の感性を世界に伝え，文化交流の道を結んできてくださった方々のお話を伺っていきたいと思います。

活動報告

黒田 鈴尊

尺八奏者

尺八の吹奏は，「吹禅（すいぜん）」という座禅の便法の一つとされています。その音楽性の瞑想性・静ひつさから，今や世界中に尺八のファンが広がっており，ワールド尺八フェスティバルは，日本のみならず世界各地の都市で４年ごとに開催されています。

私は，２か月間に６か国（中国，イタリア，ブラジル，フランス，ドイツ，ポルトガル）16都市を巡りましたが，本日は２か国についてご報告したいと思います。

まずは，イタリアです。ミラノでは，世界的に有名な現代音楽アンサンブル「mdi ensemble」と共同主催公演を開催し，同世代の作曲家による新作初演，アンサンブル曲の再演を行いました。尺八は，無音の「間」を大事にします。ミラノの観客は１音も聞き逃すまいと前のめりで聞いてくれ，会場全体が「間」に至るまでも共有し，共鳴していることを実感しました。

尺八の譜面は，ロツレチリ，ロツレチハという独特の符号を用いる縦譜です。五線譜と古典的な縦譜の技法では，どのような差が生まれるのか。今回，ミラノの浦部雪氏に作曲を委嘱するにあたり，遠く離れた東京からそれを共有してもらうために，私は初めて現代曲を縦譜に書き換える試みをしました。

次は，ブラジルです。私が訪ねた際，「あなたの前世はブラジル人だよ。もっと長くいれば，必ず分かるよ」と言われたほど，楽しい思い出がたくさんできました。サンパウロ公演では，東京芸術大学に留学されていた先輩でもある尺八演奏者シェン・リベイロ氏との共演も実現しました。また，ワークショップでの子ども達との共演も忘れられない思い出です。よさこい節を選んだところ，ロンドリーナの皆さんはこの曲を知っていたようで，想像以上にグルービーなワークショップとなりました。

クリチバで開催したアリーナでの独演会では，尺八の古典本曲や現代曲も演奏しましたが，会場が最も沸いたのは，日本の童謡や歌謡曲のメロディーでした。日系人が多いというだけでなく，日本のポップスや歌謡曲の文化は地球の裏側でも広く共有されており，単旋律の楽器であっても，

黒田鈴尊氏による発表

鶴田真由氏によるインタビューに応じる黒田鈴尊氏

言葉が通じなくても一つになれることを知ったことが，一番の収穫です。

鶴田　縦譜を初めて見た方からは，どのような反応がありましたか。

黒田　筆で書かれたカタカナなど，初めは分かりづらいようでしたが，縦譜に記されているのは必要最小限の情報ということもあり，一度分かると理解は早かったですね。日本の文化や歴史も交えながら，説明をしました。

鶴田　文化交流使として，これだけは外国でやってみたいと思っていたことは，どのようなことでしたか。

黒田　自分だけでは行かないような場所へ行って，現地の音楽家と日本の音楽を一緒に楽しみたいと思っていました。ブラジルで，大ファンの作曲家であるピジンギーニャの曲を現地の偉大なピアニストであるガブリエル・レヴィと共演できたことは，大きな喜びでした。

鶴田　尺八に対する反応は，国によって違うものなのでしょうか。

黒田　ベルリン（ドイツ）では，蓋を開けたら満席だったということがありました。どんな音楽なのか，想像もつかないから行ってみようという風潮があると感じました。

鶴田　とくに刺激を受けたことは，どのようなことですか。

黒田　2か月間，刺激だらけでしたね。ブラジルの子ども達とのワークショップで，その時の音楽を楽しんでいる心からの笑顔を見て，やはり楽しまなきゃということを思い出させてもらいました。

鶴田　文化交流使の経験を経て，今後どのように自分を変化させていきたいと思いましたか。

黒田　ガブリエル・レヴィとの共演を通し，ジャンルや即興など関係なく，何をやってもいい音楽の場をポンと作れるという経験をしました。それを日本でも実現するために，新たな活動を始めています。

清水 利仲

両口屋菓匠　取締役顧問

私は，1か月間でスペイン（マドリード，バルセロナ），フランス（パリ，ストラスブール），ドイツ（フランクフルト）の欧州3か国5都市を訪問し，講習会や講演会を計12回実施しました。2013年に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され，和菓子の人気も世界に広がっているようですね。今回の文化交流使としての訪問についても，世界52都市からオファーがあると聞き，和菓子が大きく注目されていることを認識しました。

和菓子には，約1000年の歴史があります。安土桃山時代には，豊臣秀吉が大茶会を催したことも，歴史の本に記されています。そのように茶席菓子として発展し，明治から昭和にかけて，現在の和菓子のスタイルになったといわれています。

今回は，国際交流ということで「和菓子を愉しむ集い」というテーマを掲げ，実際に「見る・知る・触れる・味わう」ことを通し，和気あいあいと奥深い「なごみ（和）」の世界をお伝えできたことを心から嬉しく思っています。

一方で，和菓子の材料は外国へ持ち込むことが難しいという制約があります。そこで今回は，十年来，毎年訪れて

清水利仲氏による発表

いる欧州3か国を文化交流使の活動の場として選びました。実は，期間中，全国和菓子協会・チーム和菓子のメンバー15名が欧州に結集し，スペイン，フランス，ドイツと10日ごとに計3回，和菓子の材料を運んでくれたのです。そのおかげで，実際に日本で使っている素材を使った和菓子を現地の人々に味わってもらうことができました。

マドリードでは，夏休み期間だったため，料理学校の先生たちが小豆を炊いて餡の作り方を教えてほしいとのことで，3日連続で参加されました。暑い夏の気候に，水ようかん，わらびもち，葛まんじゅうを作り，非常に喜んでいただけたようです。やはり日本で美味しいと言われるものは，フランスでもスペインでも美味しいと言われます。世界共通ですね。

ストラスブールの総領事館では，M.O.Fという食に関する人間国宝が4人参加されました。現地では，今でもこの時のことが話題に上るようです。

振り返ると，400人を超える人々に講習会や講演会へ参加していただき，1か月間，笑顔が絶えませんでした。和菓子の持つ力を再認識するとともに，安心・安全な日本の食文化として，今後も世界に広げていきたいと考えています。

清水利仲氏の作品

鶴田真由氏によるインタビューに応じる清水利仲氏

鶴田　今，舞台上にディスプレーされている花の装飾は，清水さんによる和菓子の作品だと伺っています。

清水　はい。土台に飴細工などを用いて作りました。全国博覧会では，2.4メートル四方の大作を手掛けたこともあります。

鶴田　和菓子で季節の心などを伝えるために，どのような工夫をされていますか。

清水　和菓子にはそれぞれ名前があり，「梅に鶯」といった物語や文化があります。それを愛でながら，お茶とともに食していただくのが，私たちの仕事です。

鶴田　現地では，和菓子に対してどのような反応がありましたか。

清水　パリは気温40度と暑かったため，夏場の和菓子を作って喜ばれました。人間国宝のM.O.Fは，日本の砂糖に興味を示していましたね。和三盆や黒糖，氷砂糖やざらめなど，日本ほど砂糖の種類が豊富な国はないように思います。桜が散る，牡丹が崩れる，菊が舞うといった繊細で豊かな表現を持つ日本の良さを，海外へ行って改めて感じています。また，昼食と夕食の間の八つ刻（やつどき）にとる15時のおやつも日本独特の文化ですね。

鶴田　文化交流使の活動を経て，新たに挑戦したいことはありますか。

清水　和菓子だけでなく，米や自然食を広げていければいいと思っています。フランスでは，小豆を無農薬で栽培しています。通常の半分程度しか収穫できないのですが，それでも有機・無農薬を貫くというフランス人の頑固さには感心しています。

森 隆宏

盆栽師

昨年は，新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で多くの展示会が中止となりました。今年２月には，東京都美術館で開催された国風盆栽展に出展する 11 点の盆栽の手入れを行い，無事全てが入選することができました。愛好家が丹精込めて育てた盆栽を最高峰の舞台に飾るお手伝いができることは，職人冥利に尽きますね。

文化交流使の活動期間は，盆栽の季節に合わせて調整し，黒松（くろまつ）の芽切り作業を終えた７月中旬から秋の作業が始まる９月中旬までの２か月間としました。多くの国で学生の夏季休暇と重なる中，大学での講演会開催に期待を持てる国として決定したのが，今回訪問したカナダ，アメリカ，オーストラリア，シンガポールの４か国８都市でした。

活動では，盆栽の基礎，手入れ，表現方法などを講演し，デモンストレーションでは，現地の素材を用い，剪定や針金を使った枝の操作などを披露しました。またワークショップにおいては，それぞれが持ち寄った盆栽をプロの視点でアドバイスし，各自作業を行いました。また，一過性のイベントで終わるのではなく継続した関係づくりに貢献したいと考え，イベント参加者と現地の盆栽関係者，日本側施設とのつながりを構築する内容も盛り込みました。

講演の際に最も多く寄せられるのは，樹齢に関する質問

森隆宏氏による発表

森隆宏氏による発表

です。私が以前勤めていたさいたま市大宮盆栽美術館には，推定樹齢 1000 年の蝦夷松（えぞまつ）があります。こういう話をすると，とてもいい反応が返ってくるため，各地での樹齢トークは定番でしたね。

いくつかの都市では日系移民の子息も多く，日本人コミュニティで愛好会をつくり，現地社会との友好に一役買ったといいます。日本を離れても，植物を愛でる日常を大切にした日系移民がいたことを知り，感慨深い訪問となりました。

盆栽には，茶道や華道のような流派というものがありません。自然が先生であり，風雪に耐える松や人里に植えられた梅，たわわに実をつける柿などが作品のお手本となるため，「自然に習う」という言葉がよく使われます。

いつも講演会の最後には，加藤秀男先生の『盆栽の力』という著書から，私の好きなエピソードを引用し，締めの挨拶としていました。「盆栽を始めると，自然の恩恵というものをこれまで以上に強く感じると思います。（中略）しかし，大きな展示会などで賞なんかを獲ると，うぬぼれて勘違いする人間が必ず出てくるのです。そういう者たちに言うのです。『いいか，これから俺が言うことを全部できるんだったら，その盆栽は確かにお前の作品だと言える。水をつくってみろ。空気をつくってみろ。それから太陽の光，温かみをつくってみろ。どうだ。何ひとつできないじゃないか。今挙げたひとつでも欠けたら，この盆栽は誕生していないんだぞ。それにもかかわらず，俺がつくったなんて，うぬぼれちゃいけないよ』」，このようなエピソードです。

盆栽に対して謙虚でいること，自然に対し畏敬の念を抱

鶴田真由氏によるインタビューに応じる森隆宏氏

くこと，そういったことを教えてくださっているわけです。自然への感謝とともに，未来へ引き継ぐ命や文化があるという意識を常に心の片隅に置いて生きていく。そんなメッセージが，盆栽にはあると思います。

鶴田　盆栽の中にある日本の心を短期間のうちに伝えるために，工夫した点はありますか。

森　私たちは，修業期間中，盆栽に対する心得を叩き込まれます。そのため，文化交流使の活動のために準備したものではなく，これまでの経験から出てくる言葉で伝えていければいいと考えていました。

鶴田　4か国を巡って，興味を抱いた植物はありましたか。

森　やはり，日本のように多種多様の植物がある国は珍しいと感じます。それが盆栽を世界に発信していく優位性にもつながっているのだと思います。

鶴田　今後，文化交流使の経験をどのように生かしていきたいですか。

森　職人としては，自分にできることを毎年変わらず続けていきたいですね。あとは，1人ではできない情報発信など，コミュニティのつながりを強化していければいいと思っています。

田村 圭吾

京料理　萬重若主人，全国芽生会連合会　監事

文化交流使として，ニュージーランド，エルサルバドル，ハンガリー，北マケドニア，レバノン，アラブ首長国連邦を訪問し，晩餐会や専門学校の授業，プロ向け講習会，市民向け講習会などで「和食文化セミナー」を開催しました。

ご承知のように，「和食；日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産登録は，世界的に大きな注目を集めました。現地では，「多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重」「栄養バランスに優れた健康的な食生活」「自然の美しさや季節の移ろいの表現」「正月などの年中行事との密接な関わり」といった和食の特徴を説明しました。

日本食では「うま味」を上手く利用し，野菜たちを美味しく食べるため，ヘルシーで美味しい。現地の参加者は，こうしたイメージを既に持っているようでした。さらにセミナーでは，精進料理や茶懐石料理といった日本食の系譜にも触れつつ，現代の日本人は，一汁三菜をバランスよく食していることも紹介しました。

日本人は，「和合」「和をもって尊し」ということを大切にしてきました。今回，白和えという料理を各地でつくるにあたり，ほとんどの都市で豆腐を入手できましたが，唯一，手に入らなかった北マケドニアでは，白い豆を炊いて代用しました。やさしい味の豆腐をドレッシングのようにして，人参やほうれん草といった現地の野菜を茹でたり炒めたりして，それぞれの素材の特徴を損なうことなく和えていく。つまりハーモニーを大切にしている訳です。このように，料理を通して日本人の精神性を伝えることができたと思います。

6か国を巡ってみて，ラーメンや寿司の食材は見かけました。エルサルバドル，ニュージーランド，レバノンでは，魚にストレスをかけない日本の活け締めの技術を披露したところ，参加者の興味を引いたようです。

田村圭吾氏による発表

北マケドニアでは，ホテルで200人の懐石料理フルコースを振る舞ってほしいとのことで，宴会場のスタッフ10名が5日間，専属で手伝ってくれることになりました。おかげで，日本のものよりかなり大きいうなぎの蒲焼きなどもつくり，立派な晩餐会を行うことができました。ホテルのシェフの一人は，最後に自分が使い込んだ愛着ある包丁を私に託してくれ，私も自分の包丁を彼に渡しました。まさに魂の交換です。食は，世界共通の言語であり，言葉が通じなくても分かり合える部分があります。今後も，食の文化交流使が世界で活躍できることを願っています。

鶴田　今回，バラエティに富んだ国々を訪問されましたね。

田村　そうですね。日本人は，つい西欧州や北米を見がちなのですが，私たちがあまり馴染みのない国であっても，日本を見てくれていると感じました。一般の人も少し目を向ければ，交流が進むように思います。日本食への関心は，想像以上に高いですね。

鶴田　日本食をつくる工程の丁寧さを見て，海外の方々は驚きませんでしたか。

田村　そうですね。ほとんどの国では魚を生食する文化がありませんので，とくに魚の扱いは雑だと感じました。

鶴田　カルチャーショックを感じたことは，ありましたか。

田村　素朴で美味しいものがたくさんありました。北マケドニアはさまざまな国に支配されてきた歴史の中で，庶民は各文化の食事の良いところを融合させてきたのだと思います。意外だったのは，エルサルバドルの人々は，辛いものがさほど好きではないということです。ステレオタイプを持たずに，それぞれの国の特徴や歴史をみることが大切だと感じました。

田村圭吾氏による発表

鶴田真由氏によるインタビューに応じる田村圭吾氏

鶴田　今後，文化交流使の活動をどのように生かしていきたいですか。

田村　食は共通のツールであり，いろいろな日本の文化を横串で刺すことができます。今後，食とさまざまな日本文化のコラボレーションが進んでいけば，面白いと思います。

三谷 純

筑波大学　教授

折り紙の世界は奥が深いものです。折ることしか許されない制約の中で，その幾何学的な性質を理解し，計算し，時にはコンピュータを用いて設計することで，曲面を持つ彫刻のような作品を1枚の紙で作ることも可能となります。私は，日本に古くから伝わる折り紙の一歩先を，数学やコンピュータの技術，そして新しい感性を使って，切り開いていきたいと思っています。

2019年10月27日から12月22日までの8週間に，中国（香港），フィリピン（マニラ），マレーシア（クアラルンプール，ペナン），バングラデシュ（ダッカ），インド（コルカタ，ニュー

デリー），タイ（バンコク，ウドンターニー），ミャンマー（ヤンゴン，マンダレー），ベトナム（ハノイ）の 8 か国 12 都市を巡りました。この間，35 回ほどの講演とワークショップ，作品展示，現地の方々との交流会を行うことができました。

訪問先での活動のメインは講義で，現地の高校や大学，博物館などで，幅広い方々を対象に日本の文化と折り紙について説明しました。講義の内容は，日本の折り紙の歴史と文化，折り紙のアート作品の紹介，折り紙の幾何学や折り紙の工学的な応用などです。

講演の後は，参加者に折り紙を楽しんでいただくワークショップを行いました。前半は和紙を用いて折り鶴を制作し，後半はコンピュータで設計した丸い形の折り紙を体験していただきます。伝統的な折り紙と，最近の折り紙の両方を知ってもらう試みでした。

インターネットの時代にあって，海外の人々も，折り紙について多くのことを知っています。折り紙の世界は日々進歩しており，多くの人が，より新しい今の日本の折り紙を知りたがっていることがよく分かりました。そのため，「日本発の数学とコンピュータを駆使した，ちょっと変わった折り紙を伝えることにも，きっと意義があるに違いない」と思うようになりました。

香港，ミャンマー，バングラデシュなど，私が訪問した国・都市の多くは，コロナの影響だけに留まらず，今まさに大きな試練に直面しています。そのような中でも，多くの人々の優しさに触れ，恵まれた旅をさせていただきました。折り紙は，文化，世代，物理的距離を乗り越えて世界の人々と交流する 1 つの素晴らしいアイテムです。この文化交流を通し，国際的に平和で豊かな社会づくりに少しでも貢献できたのであれば，心より嬉しく思います。

三谷純氏による発表

三谷純氏の作品

鶴田　折り紙は日本の文化の1つだと知り，驚きました。さらに，折り紙は数学だったのかという驚きもありました。

三谷　すでに，オリガミという言葉自体が世界の標準語となっており，日本の文化の1つとして，世界的に定着していると思います。折り紙は子どもの遊びという認識がある中で，コンピュータサイエンスの大学教員が真面目に折り紙の話をしているということで，参加者には興味をもって聞いてもらえたようです。折り紙を通して，デジタルの設計から，実際に手を動かすものづくりまで，一連のつながりを体験してもらうことができました。

鶴田　実際に手を動かすことで，新しい発想が生まれるようなこともありますか。

三谷　まさに，それは大事なことです。実際に手を動かすことで，紙はこういうふうに動くのかと感じることもあります。建築や芸術の分野の方々は，そういう楽しみ方をよく知っていると思いますね。

鶴田　日本の学生と海外の学生で，反応に違いはありましたか。

三谷　海外の学生からは積極的に多くの質問があり，興味が旺盛だと感じました。日本でも共通するかもしれませんが，「なぜ，折り紙の研究をしているのか」という質問が多く寄せられました。折り紙がコンピュータサイエンスの

鶴田真由氏によるインタビューに応じる三谷純氏

研究対象になるということが新鮮で，そこに自分たちの知らないものがありそうだと思ってくれたようです。そういう面白さを上手に伝えていければいいですね。

中村 京蔵

歌舞伎俳優

文化交流使として，アメリカ（サンフランシスコ，ロサンゼルス，ミシガン），メキシコ，キューバを 31 日間かけて巡回し，歌舞伎のレクチャー・デモンストレーション公演を実施しました。歌舞伎俳優が文化交流使として派遣されるのは，初めてということです。私はこれまで，通算 30 か国 50 都市で歌舞伎を紹介してきましたので，その経験を生かすことができました。また，早稲田大学の児玉教授にはレクチャーの面でご協力いただき，松竹株式会社の協力を得たおかげで，全行程で衣裳とかつらを付けることができました。俳優は，私ひとりの小編成での公演でしたが，歌舞伎の魅力を伝える最低限の形を整えることができ，心より感謝しています。

内容は，女方に特化したレクチャー・デモンストレーションとし，全体で 90 ～ 100 分の構成としました。サンフランシスコ州立大学では，歌舞伎を愛する現地の先生が，開演前に歌舞伎を見る作法をレクチャーしてくださったため，拍手や歓声とともに「京屋！」と屋号の飛び交う舞台になりました。

まず私が『藤娘』を踊り，次に児玉教授による映像を使った「歌舞伎とは何か」というレクチャー，続いて，私が女方の基本を実演を交えてレクチャーした後，参加者にも女方の泣き方や笑い方を一緒に経験してもらい，楽しんでいただきました。最後に，私が『石橋』（しゃっきょう）で獅子の狂い（毛振り）を披露しました。

キューバでは，日キューバ外交関係樹立 90 周年記念ということで，初めての歌舞伎公演となりました。早くから長蛇の列ができ，定員 600 人の他に 200 人の立ち見客を入れても，数百人は入っていただけなかったようです。2 日間，同じような盛況ぶりで，国民的な歌手の方をはじめ芸術家など，多くの著名人が観客として来てくださいました。

また，文化庁から各現地文化とのコラボレーションを要請されていたため，カーテンコールでは，ローカルミュージックで獅子の毛振りをお目に掛けました。キューバではロス・バン・バンという有名な曲で，ミシガンではアメフトの応援歌で毛を振ったのですが，身近な曲が流れると観客は驚き，大いに盛り上がりました。

ミシガン大学では，歌舞伎における愛と死について語るように言われ，急きょ 60 分ほどの講義を行うことになりました。キューバでは，国立芸術大学の学生と意見交換会を実施しましたが，今回の公演を熱心に観ていることが伝わってきて，意義深いものとなりました。今回の巡回が総勢 4 ～ 6 名での小編成であることを知ると，公演後に対談した方々は驚き，その 10 倍の規模だと思ったという嬉しい言葉も頂戴しました。

多くの人々との出会いがあり，ほんの一端ではあっても，歌舞伎の魅力をお伝えできたと自負しています。そして，

中村京蔵氏による発表

鶴田真由氏によるインタビューに応じる中村京蔵氏

各地から「また来てほしい」という声が多く届いていることは，この上ない喜びです。改めて，先人達が築き上げてきた歌舞伎の底力を痛感しています。

鶴田　キューバでは，意外なことに初の歌舞伎公演だったのですね。

中村　はい。責任重大でした。キューバの音楽で獅子の毛を振りましたが，全く違和感はありませんでした。楽しんでいただけたと思います。

鶴田　女方に対し，どのような反応がありましたか。

中村　25年ほど前から海外で歌舞伎を紹介していますが，昔は興味本位の質問もありました。しかし最近は，女方が受け入れられていると感じますね。遡れば，ギリシャ古典劇，初期のシェイクスピア劇，中国の京劇でも女方は存在しましたが，21世紀の今日まで，演劇の中で女方が現存している歌舞伎は世界でも大変稀有な存在です。

鶴田　今後，海外でどのような活動をしていきたいですか。

中村　海外で歌舞伎を紹介する時は，師匠から教わった通りに演じることを心掛けています。海外向けにアレンジすることなく，なるべく日本でやっている通りのものを見ていただきたいと思っています。

鶴田 真由

モデレーター

日本人の四季と共にある自然と調和しながらできている文化・芸術がますます海外に広まり，よきコラボレーションが広まっていくことを願っています。本日は，ありがとうございました。

黒田鈴尊氏によるエンディングアクト

活動報告

photo by Ayane Shindo

黒田 鈴尊

尺八奏者

人間国宝二代青木鈴慕，三代青木鈴慕に師事。国際尺八コンクール2018inロンドン優勝。利根英法記念邦楽コンクール最優秀賞。国際現代音楽祭ARS MUSICAにて武満徹『November Steps』や新作尺八協奏曲を演奏。毎年の世界中での独演会や数多くの委嘱新作，オーケストラとのコラボレーションを通じ尺八の今とこれからの無限の可能性を追求。CDやTV，歌舞伎公演などにも音源提供多数。アンサンブル室町，邦楽四重奏団（1st CDはレコード芸術誌にて特選盤），1÷0，The Shakuhachi 5，RigarohieSメンバー。

KURODA Reison

Shakuhachi Player

KURODA Reison studied under AOKI Reibo II, a *shakuhachi* (bamboo flute) player designated as a Living National Treasure, and AOKI Reibo III. He won the highest award at the World Shakuhachi Competition in London in 2018 and another at the 2nd Hidenori Tone Traditional Japanese Instruments Contest. At the Ars Musica modern music festival, he played TAKEMITSU Toru's "November Steps" and world premieres of the latest *shakuhachi* concertos. Giving solo performances in various places in the world every year, performing new pieces created on commission and collaborating with orchestras, he pursues the current *shakuhachi* and its infinite potential. Moreover, he provides a number of sound sources to CDs, TV programs, Kabuki theatre performances and others. He is a member of the Ensemble Muromachi, Hougaku Quartet (The Quartet's first CD was designated as a specially selected recording in the Record Art magazine), 1÷0, Shakuhachi 5 and RigarohieS.

清水 利仲

両口屋菓匠　取締役顧問

卒業後，両口屋菓匠にて和菓子職人として勤務。現在取締役顧問。2014年ものづくりマイスター認定（菓子製造）を受ける。製菓学校等での指導も積極的に行っている。2011年から世界に向けて和菓子の啓蒙活動を始める。健康でヘルシーな和菓子「食の文化遺産」を再認識し，和菓子とともに豆の文化「小豆・大豆」を世界に広めるため，フランス，アルザス地方で小豆作りを指導し，伝統の和菓子作りを紹介している。また，フランス，パリで和菓子講習会を定期的に開催している。三河和菓子技能士会 技術顧問。和菓子研究団体名和会 副会長。

SHIMIZU Toshinaka

Ryouguchiya Kasyo, Director of Executive Adviser

After graduation, SHIMIZU Toshinaka worked for Ryoguchiya Kasyo as a *wagashi* (Japanese confectionery) chef. Currently, he sits on the board and serves as an advisor of the confectionery company. In 2014, he was designated as a master under the Monozukuri Meister System (confectionery manufacture) by the Ministry of Health, Labour and Welfare. He actively passes on his skills to younger people by giving guidance at, for example, confectionery schools. He has been educating the global audience on Japanese confectionery since 2011. In order to help people recognize healthy Japanese sweets as a "culinary intangible cultural heritage" and to popularize the culture of beans, such as adzuki and soybean, along with *wagashi* throughout the world, he gives guidance on growing the adzuki bean in the Alsatian region, France, as part of efforts to introduce Japanese traditional confectionery making. In addition, he also organizes a *wagashi* workshop in Paris on a regular basis.

田村 圭吾

京料理　萬重若主人，
全国芽生会連合会　監事

京都西陣の萬重（創業昭和12年）の長男として生まれ，幼少期より家業の手伝いをし，各地で修業後家業に従事。業界では「日本料理アカデミー」に設立と同時に参加。地域食育副委員長として全国の小中高大学生に指導を続け，京都市教育委員会の推進委員も務める。京都料理芽生会会長を平成29年から務め，同全国連合会の副理事長を歴任し現在，同全国連合会の監事。海外では和食文化普及のため，フランス，イタリア，ハワイ，マレーシア等でも腕を振るう。野菜ソムリエ京都を立ち上げ，現在顧問を務める。京都観光おもてなし大使にも就任。

TAMURA Keigo

Kyoto Cuisine Manshige, Junior Owner and The Zenkoku Mebaekai Rengokai (Junior Traditional Japanese Cuisine Restaurant Association) Supervising Inspector

TAMURA Keigo was born the eldest son of the owners of the Manshige, a Kyoto cuisine restaurant in Nishijin, Kyoto (founded in 1937). He helped run the family business from childhood and later took over the business after completing his training in various places. In the industry, TAMURA joined the Japanese Culinary Academy as a founding member. He has given guidance to primary, junior, and senior high schools as well as college students across the country as the vice-chairman of the Regional Food Education Committee of the Academy for over 15 years. He also serves as a member of the committee for the promotion of food education curriculums of the Kyoto City Board of Education. He has served as the chairman of Kyoto Cuisine Mebae Kai since 2017, and as the Deputy Director of its national federation. He currently serves as the Auditor of the national federation. He has a wealth of experience in cooking overseas, including in France, Italy, Hawaii, and Malaysia, for the dissemination of *washoku* (Japanese cuisine) as a part of Japanese culture. He established the Vegetable Sommelier Kyoto Association, for which he currently serves as an advisor. He was also appointed as a Kyoto Travel Omotenashi Ambassador.

中村 京蔵

歌舞伎俳優

1972年大学卒業後，国立劇場歌舞伎俳優養成所の第6期生となる。1982年研修修了後，同年9月に四代目中村雀右衛門門下となり，中村京蔵を名乗る。1994年4月，歌舞伎座にて名題昇進。歌舞伎座や国立劇場等での国内公演のほか，欧州，米国，大洋州，東南アジア等海外での国際交流基金主催の歌舞伎レクチャーデモンストレーション公演で，様々な国での歌舞伎の普及に務める。2005年11月，伝統歌舞伎保存会会員に認定。現在，国立劇場歌舞伎俳優養成所講師。

NAKAMURA Kyozo

Kabuki Actor

After graduating university in 1972, NAKAMURA Kyozo joined the Japan Arts Council's Kabuki Actor Training Center, established by the National Theatre, as a sixth-term trainee. Upon completion on the program in 1982, he commenced on a professional career as a member of the NAKAMURA Jakuemon IV family under the acting name NAKAMURA Kyozo, given by the master. He was promoted in April 1994 to *nadai* (billboard-ranked actor) at the Kabukiza Theatre. While appearing in performances at the Kabukiza and National Theatre, he has been working for the popularization of Kabuki in the world wide through the performance of Kabuki Lectures and Demonstrations organized by the Japan Foundation, especially in Europe, the United States of America, Oceania and Southeast Asia. He was certified in November 2005 as a member of the Organization for the Preservation of Kabuki. He currently performs at stage and also teaches at the Kabuki Actor Training Center in the National Theatre.

三谷 純

筑波大学　教授

2004年東京大学大学院博士課程修了，工学博士。2005年に理化学研究所研究員，2006年筑波大学システム情報工学研究科講師を経て，2015年より現職。2006年から2009年に科学技術振興機構さきがけ研究員として折り紙の研究に従事。コンピュータを用いた折り紙の設計技法などに関する研究を行っている。子どものころから紙工作とコンピュータが大好きで，それがそのまま現在の研究テーマにつながった。日本折紙学会評議員も務めている。著書に『立体折り紙アート～数理がおりなす美しさの秘密』『曲線折り紙デザイン』（日本評論社）などがある。

MITANI Jun

Professor of University of Tsukuba

Dr. MITANI completed a doctoral program in engineering at the University of Tokyo Graduate School of Engineering in 2004. He joined RIKEN as a researcher in 2005 and became a lecturer at the Department of Computer Science, University of Tsukuba, in 2006, where he has been serving as a professor from 2015 until now. From 2006 to 2009, he was a PRESTO researcher at the Japan Science and Technology Agency studying *origami*, including its design technique using computers. He has loved making paper crafts and using computers since his childhood, which has led to his present study subject. He also serves as a Councilor at the Japan Origami Academic Society. He is the author of "3D Origami Art" and "Curved-Folding Origami Design" published by CRC Press.

森 隆宏

盆栽師

大学を卒業後，「勝田光松園」にて故塚原幸次氏に師事。2009年，由緒ある国風盆栽展で職人として手がけた作品が国風賞を受賞。2009年から2013年，さいたま市大宮盆栽美術館の専属盆栽技師。2013年，欧州文化首都2013コシツェにて盆栽デモンストレーター。第8回世界盆栽大会（2017年開催）のさいたま誘致プレゼンテーションに盆栽師代表プレゼンテーターとして参加。現在，2013年に構えたアトリエ「盆栽もり」にて盆栽師の仕事に従事する傍ら，初心者を対象にしたワークショップを行うなど国内外で普及活動にも取り組む。

MORI Takahiro

Bonsai Master

After graduating from university, MORI Takahiro studied under the late TSUKAHARA Koji of Katsuta Koushouen. In 2009, his work as a *bonsai* artist won him an award at the historic Kokufu-ten Bonsai Exhibition. From 2009 to 2013, he served as a *bonsai* expert at the Omiya Bonsai Art Museum in Saitama City. In 2013, he participated in the European Capital of Culture 2013 Košice to demonstrate *bonsai*. He gave a presentation at the 7th World Bonsai Convention in China in 2013 to invite the 8th World Bonsai Convention to be held in 2017 to Saitama. Currently, he works as a *bonsai* master at his atelier "Bonsai Mori" established in 2013, and is engaged in activities to promote *bonsai* in and out of Japan through workshops for beginners, among other activities.

photo by Ayane Shindo

黒田 鈴尊

尺八奏者

活動期間　2019 年 5 月 30 日〜 7 月 28 日
活動国　中国，イタリア，ブラジル，フランス，ドイツ，ポルトガル

KURODA Reison

Shakuhachi Player

Period of the activities:　From May 30 to July 28, 2019
Countries visited:　China, Italy, Brazil, France, Germany, Portugal

尺八の“今とこれから”の世界中での展開

ブラジル・クリチバ移民祭りにて独演会
Solo concert at the Immigrant Festival in Curitiba, Brazil

私は文化庁文化交流使として日本の古典の魅力を発信するとともに，同時代の空気を吸って生きる作曲家に新作を委嘱して“今とこれからの”尺八音楽を聴いていただくこと，の両極を使命とした。

まず，新たな尺八ブームの勃興地でもある中国を訪問。北京での中国伝統楽器の簫（しょう），古箏（こそう），電子音と尺八のカルテットでは，民族楽器と現代テクノロジーの交差による新境地ながら，どこか懐かしい感覚も抱いたのが印象深い。尺八の祖先とも言われる簫は，音色が似つつも，同じ旋律を吹くほどに互いに真似できない固有の表現が際立つことも新鮮だった。ピパ奏者との即興では，シルクロードを経由した楽器同志の一期一会の音世界に，時間が経つのを忘れた。

イタリアでの「mdi ensemble」との共同主催公演では尺八と洋楽器とのコラボレーションによって新たな音楽世界を開拓するとともに，一緒に音楽するからこそ際立っていく東西の楽器それぞれのオリジナリティを追求した。ミラノでは，吐いた息と音が丸ごと飲み込まれていくかのような聴衆の集中力の高さ，会場全体の一体感に感動した。

ブラジルでは太鼓グループと“よさこい鳴子踊り”を用いてのコラボレーションにも挑戦。高知の祭り音楽をロンドリーナの皆さんもよくご存知で，すぐ一緒に音楽できることの縁の深さと喜びに心打たれた。アリーナ級の広さの会場での独演会では，日本の童謡へのダイレクトな反応にも驚いた。国際交流基金主催によるサンパウロ公演ではブラジルの音楽家とショーロ, バイヨン, ボサノバ等現地の音楽で共演。どんな音もポジティブなコミュニケーションの一部となる音楽空間を共有できたことは，今の音楽活動への大きなヒントとなっている。

ドイツで委嘱初演した足立智美氏による新作は，個人的にも尺八界にとっても初の 3D 楽譜作品。毎回演奏が全く変わることも前提のアート作品を，ベルリンの若い世代の観衆から指笛と Bravo の歓声で受け止めていただき，現在進行形の尺八音楽を共有叶ったことは心底嬉しかった。

2 か月間 6 か国 16 都市にて，およそ 34 公演 / 講義 / ワークショップを行った。文字通り世界中のたくさんの皆様にご協力賜った。改めて心から感謝したい。

イタリア・ミラノでのリサイタルにてmdi ensembleと共演
Solo concert where he performed with mdi ensemble in Milan, Italy

Present and Future Development of *Shakuhachi* in the World

As a Japan Cultural Envoy dispatched by the Agency of Cultural Affairs, I made it my dual mission to communicate the appeal of Japanese classical music and ask a contemporary composer of the same generation to create a new tune for people to enjoy "contemporary and future" *shakuhachi* bamboo flute music.

As the initial step, I visited China, where a new *shakuhachi* boom has taken place. Joining a quartet made up of Chinese traditional musical instruments, *xiao* (flute) and *guzheng* (Chinese plucked zither), electronic sounds, and *shakuhachi*, we held a performance in Beijing. Although it broke new ground with a crossover between folk instruments and modern technology, it made me feel somewhat nostalgic and left me with a strong impression. *Xiao* is said to be the ancestor of *shakuhachi*; although their tones are similar, as we played the same melody, their respective unique expressions stood out with neither one emulating each other, which came as a surprise. When I did an improvisation with a pipa player, I did not notice the time passing as I was completely thrilled by this once-in-a-lifetime musical encounter between the two musical instruments that came via the Silk Road.

ドイツ・ベルリンでのリサイタルで 3D 楽譜を世界初演
World premiere of the first-ever 3D musical score at his solo concert in Berlin, Germany

In my collaborative performance with mdi ensemble in Italy, the collaboration between *shakuhachi* and Western musical instruments pioneered a new musical world while pursuing the originality of instruments from the East and the West that became conspicuous as we performed together. In Milan, I was highly impressed by the feeling of unity in the entire hall as the audience was so focused that every breath and sound I made seemed to be devoured completely by them.

In Brazil, I took up the challenge of collaborating with a drums group to perform "Yosakoi Naruko Odori (dance based on a folk song called "Yosakoi Bushi [Melody]")." As people in Londrina were very familiar with the festival tune from Kochi, Japan, we hit it off right away as we performed, and the depth of ties and joy moved me immensely. In my solo performance in an arena-size venue, I was surprised by their instantaneous reaction to Japanese nursery rhymes. In my performance in Sao Paulo organaized by the Japan Foundation, I performed music together with Brazilian musicians in such local music genres as choro, baiao, and bossa nova. I was able to share a musical space where each and every sound formed a part of positive communication with them, which inspired new ideas for my future musical activities.

My new musical piece, which was commissioned to music composer ADACHI Tomomi and premiered in Germany, is the first-ever 3D musical score not only for me personally but for the *shakuhachi* community as well. It is a piece of art that transforms my performance completely every time I play it. It was received by a young audience with whistles and shouts of bravo; I felt joy from the bottom of my heart that I was able to share my ongoing *shakuhachi* music with them.

I toured 16 cities in six countries in two months and gave approximately 34 performances, lectures, and workshops. I was also fortunate to receive help from many people literally around the world. Let me take this opportunity to express my heartfelt gratitude.

清水 利仲

両口屋菓匠　取締役顧問

活動期間　2019年6月15日～7月15日
活動国　スペイン，フランス，ドイツ

SHIMIZU Toshinaka

Ryouguchiya Kasyo, Director of Executive Adviser

Period of the activities: From June 15 to July 15, 2019
Countries visited: Spain, France, Germany

「知る・見る・触れる・味わう」和菓子を愉しむ集い

文化庁文化交流使として，欧州3か国（スペイン・フランス・ドイツ）5都市（マドリード・バルセロナ・パリ・ストラスブール・フランクフルト）計12回の和菓子活動を行いました。和菓子を世界52か所から要請をいただいたのは驚きでした。2013年に和食がユネスコ無形文化遺産に登録されましたが，お菓子は生活文化に一番身近で溶け込み易い職種と思っておりました。

伝統の和菓子を知って実際に作って味わっていただくことによって，諸外国の皆様とご一緒に和気藹々「なごみ（和）」の世界を共有できました。伝統の和菓子は1000年を超える歴史と3000種とも言われる種類があり，小豆（豆類）・世界一多種な糖類の説明，そしてお菓子と文化の話しなど和菓子の素晴らしさを知っていただきました。

スペイン（マドリード）では時期的に夏休み期間で，料理学校の先生方が参加され，3日間通して受講され，その熱心さには頭が下がりました。小豆の炊き方・餡の作り方など質問責めに合い，関心の深さに驚きました。

カルロス三世大学日本文化講座では30名が受講され，そして水上正史 駐スペイン日本国特命全権大使にも表敬訪問させていただきました。バルセロナではパティスリー・タカシ・オチアイにて行い，茶席菓子の説明もいたしました。そして製菓学校の講習会では渡邉尚人 在バルセロナ日本国総領事夫妻，モロッコ総領事と70名の受講者の皆さんにお菓子を作っていただきました。スペインではここ2～3年和の食品ブームで大変興味があるようです。

パリ　日本文化会館ホールにて　講演会とワークショップ
Lecture session and workshop at Maison de la Culture du Japon à Paris, France

バルセロナ　パティスリー・タカシ・オチアイにて　ワークショップ風景
Workshop at Takashi Ochiai Pastisseria in Barcelona, Spain

フランス（パリ・ストラスブール）では，ここ10年間和菓子を広めて参りました。猛暑の中を多くの方々に参加いただき，心より感謝しております。ここ4～5年前から小豆の栽培（アルザス地方）もできるようになりました。日本の小豆と変わらないものが収穫できるようです。パリでは200名の受講者がありました。

ストラスブールでは総領事館にて食品業界オーナー・MOF（人間国宝）の方々など業界トップの皆さんと佐藤隆正 在ストラスブール日本国総領事も参加いただきました。

ドイツ（フランクフルト）では総領事公邸と料理スタジオにて食品業界オーナー・茶道関係・河原節子 在フランクフルト日本国総領事のお友達などと有意義な時間が持てました。

400名を超える受講者の皆さんとともに「なごみ（和）」の時間が持てましたこと，心より感謝いたしております。

Joyful Gatherings to Know, See, Touch and Taste Japanese Confectioneries

As a Japan Cultural Envoy, I organized a total of 12 *wagashi* (Japanese confectionery) workshops in five cities (Madrid, Barcelona, Paris, Strasbourg, and Frankfurt) in three European countries (Spain, France, and Germany). It was amazing to receive requests for *wagashi* from 52 countries across the world. When UNESCO added traditional Japanese cuisine to its Intangible Cultural Heritage list in 2013, I thought it was appropriate because confectioneries are the most familiar culinary culture in our everyday life.

I was happy to offer the participants of the workshops from around the world the opportunity to know and taste Japanese traditional *wagashi* and to share a cozy and harmonious atmosphere with them. The topics of my lecture included the long history of traditional *wagashi* of over 1,000 years and its wide variety (over 3,000 types), explanation about adzuki and other beans as well as the widest variety of sugars in the world, and the relationship between confectioneries and cultures. I believe that the lecture helped participants know more about the attractions of *wagashi*.

In Spain, culinary instructors of cooking schools participated in a three-day workshop during summer holidays. I was impressed by their enthusiasm for learning and surprised at their deep interest in *wagashi* when they bombarded me with questions about how to cook adzuki beans and sweet bean paste. At Universidad Carlos III de Madrid (University Carlos III of Madrid), 30 people attended a Japanese culture class. On that occasion, I made a courtesy visit to MIZUKAMI Masashi, the Japanese Ambassador to Spain. In Barcelona, I held a workshop at Takashi Ochiai Pastisseria and introduced *wagashi* for tea ceremony. At a workshop held in a confectionery school, approximately 70 participants, including WATANABE Naohito, the Japanese Consul General in Barcelona and his wife as well as the Moroccan Consul General, enjoyed cooking *wagashi*. It seems that their interest in *wagashi* is rooted in the boom of Japanese foods in the past couple of years.

In France (Paris and Strasbourg), I have worked to popularize *wagashi* for the past decade. In Paris, 200 people participated in the workshops. I am truly grateful for the participation of many people in the workshops even in the summer heat. It became possible to grow adzuki beans in the Alsatian region four or five years ago. I have heard that adzuki beans harvested in this region are the same as those harvested in Japan.

ストラスブール　日本国総領事館にて　MOF（人間国宝）・食品業界のオーナーの方々
Meilleur Ouvrier de France (MOF) chefs and food business owners at the Japanese Consulate General in Strasbourg, France

In Strasbourg, food industry leaders, including food business owners and Meilleur Ouvrier de France (MOF) chefs as well as SATO Takamasa, the Japanese Consul General in Strasbourg participated in a workshop held at the Japanese Consulate General. In Germany (Frankfurt), I had a wonderful time with the participants, including food business owners, tea ceremony experts, and friends of KAWAHARA Setsuko, the Japanese Consul General in Frankfurt at workshops held at the official residence of consul general and at a cooking studio.

I would like to express my gratitude to a total of over 400 participants for sharing a cozy and harmonious atmosphere with us.

田村 圭吾

京料理　萬重若主人，全国芽生会連合会　監事

活動期間　2019 年 8 月 26 日～ 10 月 4 日
活動国　ニュージーランド，エルサルバドル，ハンガリー，北マケドニア，レバノン，アラブ首長国連邦

TAMURA Keigo

Kyoto Cuisine Manshige, Junior Owner and The Zenkoku Mebaekai Rengokai (Junior Traditional Japanese Cuisine Restaurant Association) Supervising Inspector

Period of the activities:　From August 26 to October 4, 2019
Countries visited:　New Zealand, El Salvador, Hungary, North Macedonia, Lebanon, United Arab Emirates

「和心求道」京の料理人世界に和の心を伝える

料理は世界どの国の人にとっても最も身近で生活に欠かせないものです。そのため「文化」としてとらえられていない側面がありますが，その地域文化を知る上で最も解かりやすいツールだと思います。我が国においても 2013 年にユネスコが「和食」を無形文化遺産に，国も 2017 年法律改正により「食」がようやく文化としての地位を確立しました。

それを受けての今回の派遣。日本食の技法をただ単に伝えるのではなく，「和食文化セミナー」の実施を通じて，山海川など自然の恵みには万物に八百万（やおよろず）の神と言われる，精霊や自然神が宿り，その恩恵に感謝して文化を形成する我が国民の精神性。食前に命をいただくという意味で「いただきます」と言い，その神を粗末にしないという考え方から「もったいない」という言葉が生まれたこと。松竹梅に込められた「堪え忍んで強く生きること」の意味。降雪の冬にでも生命力豊かな松竹。松は太く根を生やし，大地からの生命のエネルギーを得ると考え生命力の源であること，竹は風雪にさらされ倒れそうになっても

エルサルバドル　プロ向け講習会
Seminar for professionals in El Salvador

ドバイ　専門学校での講習会
Seminar at vocational school in Dubai

その度に跳ね起き屈強にも耐える強さを，寒さの中にあって最初に美しい花を咲かせる梅。ユネスコ無形文化遺産の登録の意味，日本食が世界でも珍しい「うま味」を中心に食が形成されていてヘルシーで健康的なこと。「和をもって尊し」という言葉を大切にし，それぞれが個々を大切にしながらも互いを尊重し，融和を図る国民性であることを伝えました。

そのことを「市民向け講座」「プロ向け講座」「専門学校での授業」「晩餐会」など様々な機会を通じて，6 か国 780 名の方に実演・試食を通して実際に味わい，体験していただき，日本文化の素晴らしさ，奥深さを理解していただけたことは成果であり，「食」は世界に通じる共通ツールで，特に文化性が高い我が国の食は習慣，哲学，思考など世界の人々に日本国を理解していただくには大変明快で，親しみやすい有効な手段との意識を改めて感じました。

A Japanese Chef in Kyoto Seeks to Convey the Spirit of Japan to the World

ニュージーランド　大使公邸での晩餐会
Dinner party held at the Official Residence of the Ambassador of Japan to New Zealand

Cooking is one of the most familiar things to anyone in the world. It is essential to daily life. Being so familiar in everyday life, food is not always perceived as culture, but I think it is the easiest tool to understand another culture. In Japan, UNESCO added traditional Japanese cuisine to its Intangible Cultural Heritage list in 2013, and in 2017, the Japanese government finally established food as a culture by revising its law.

These events have led me to be dispatched as a Japan Cultural Envoy. In the Japanese Food Culture Seminar, I spoke about the spirituality of Japanese people, rather than merely conveying the techniques for Japanese food. I told the participants that Japanese culture had been formed with the belief that the spirits and gods of nature called "*Yaoyorozu no Kami* (eight million gods)" dwell in every blessing in nature, from mountains to rivers and the ocean, and that the gratitude for the benefits from the gift of nature underlies the spirituality of Japanese people. Many Japanese phrases were born out of this spirituality. Therefore, before every meal, we say "*Itadaki masu*," which means "I humbly receive." The word "*Mottainai*," which means "don't waste," was born from the idea of treating things (gods) with respect. The pine, bamboo, and plum blossom, which are considered fortunate items in Japan, are infused with the meaning of "enduring and living strong." Pines and bamboos are full of vitality, even in the snowy winter. Pines are considered to be the source of vitality because of their thick roots, which were thought to obtain the life energy from the earth. Bamboos are resilient, bouncing back each time even when they are close to falling down by wind or snow. Plum blossoms bloom beautifully in early spring, when it is still chilly, ahead of other plants. I also talked about the significance of listing Japanese cuisine on UNESCO's Intangible Cultural Heritage list and that Japanese food is healthy and based on "*umami*," which is the core characteristic of Japanese cuisine, and it is a rare taste in other cuisines in the world. In the seminar, I described Japanese as people who cherish the saying, "Harmony is to be valued," and they value harmony by respecting each other while respecting themselves.

I gave lectures for community members, taught classes for professionals and vocational school students, as well as held banquets where 780 people from 6 countries experienced Japanese meals through demonstrations and tasting. It was an outstanding achievement for me that I had these various opportunities to share the understanding of the wonderfulness and depth of Japanese culture. These experiences also reminded me once again that food is a universal tool. It is a very simple, approachable, and effective method to gain the understanding of people in the world on Japanese customs, philosophy, thinking, etc., because Japanese food is highly cultural.

レバノン　プロ向け講習会
Seminar for professionals in Lebanon

中村 京蔵

歌舞伎俳優

活動期間　2019 年 11 月 5 日～ 12 月 4 日
活動国　アメリカ，キューバ，メキシコ

NAKAMURA Kyozo

Kabuki Actor

Period of the activities:　From November 5 to December 4, 2019
Countries visited:　The United States of America, Cuba, Mexico

歌舞伎の底力

ミシガン大学での講演
Lecture, University of Michigan

この度，文化交流使として歌舞伎が派遣されるのは初めてで，派遣先はアメリカ（サンフランシスコ・ロサンゼルス・ミシガン）→メキシコ→キューバ。私はこれまで 30 か国 50 都市ほど海外で歌舞伎をご紹介する仕事に携わって来ましたので，アメリカとメキシコは経験がありますが，キューバは初の歌舞伎公演なので，責任も重く戦々恐々でした。幸い早稲田大学の児玉教授と松竹の協力が得られましたので，俳優は私女方ひとりの小規模編成にもかかわらず，歌舞伎の魅力を伝える最低限の形を整えることができました。

内容は女方に特化したレクデモとし，全体で 90 分強。まず，私の『藤娘』で女方の美，衣裳の引き抜き（早替わり）をご覧に入れ，次に児玉教授による映像を使った「歌舞伎とは何か」というレクチャー，引き続き，私が女方の基本を実演を交えてレクチャーし，さらに児玉教授のレクチャーその 2 があり，最後に私が『石橋（しゃっきょう）』で獅子の狂い（毛振り）をご覧に入れました。また，文化庁さんからの要請で各現地文化とのコラボを実施。カーテンコールにおいて，ローカルミュージックで獅子の毛振りをお目に掛けました。客席の皆さんは一様にビックリしたらしく，どこも大いに盛り上がりました！また女方のレクチャーで，感情表現（泣く・笑う）を客席を交えた参加型にしたところ，観客の皆さんは各地とも実に積極的に体験してくださり大変喜ばれました！

さらに，歌舞伎は畏まって静かに観るものではなく，いいな！面白いな！と感じたら拍手や掛け声を遠慮なく掛けてくださいと通訳さんを通してレクチャーしたところ，各地とも皆さんノリノリで掛け声を掛けてくださり，楽しんで観てくださっていることを実感いたしました。

ミシガン大学では，歌舞伎の中の男女の愛の描き方をテーマに 60 分ほど講演し，またキューバでは，国立芸術大学の学生さんと意見交換会がありましたが，今回の公演を熱心に詳しく観ておられて，他国の文化に対する深い理解を感じました。

ほんの一端ですが，歌舞伎の魅力をお伝えできたと自負しています。そして，各地から再来を希望する声が多々届いておりますことは，文化交流使としてこの上ない喜びです。それはとりもなおさず，先人達が築き上げて来た歌舞伎の底力のお蔭に外なりません。今回もそれを痛感した次第です。

カリフォルニア大学ロサンゼルス校公演の女方のレクチャー
Lecture on *onnagata* and performance, UCLA

Fascination of Kabuki

Kabuki, serving for the first time as a Japan Cultural Envoy, traveled to the United States of America (San Francisco, Los Angeles, and Michigan), Mexico and Cuba. I have introduced Kabuki in some 50 cities in 30 countries around the world, including the United States of America and Mexico. However, this was my first Kabuki performance in Cuba, and I felt an overwhelming of responsibility and anxiety. Thanks to Professor KODAMA Ryuichi of Waseda University and Shochiku Co., Ltd., our small entourage of only one *onnagata* (female role actor), yours truly, gave a successful performance in a way that conveyed the charm of Kabuki.

The program consisted of lectures and demonstrations focused on *onnagata* and lasting a little over 90 minutes. The program started with my performance of "*Fuji Musume* (Wisteria Maiden)", which showed the beauty of *onnagata* and *hikinuki* (quick costume change). This was followed by a lecture coupled with a video by Professor KODAMA entitled, "What is Kabuki?" I then gave a lecture and demonstration on the basics of *onnagata*, followed by Professor KODAMA's second lecture. The program ended with my performance of "*Shakkyo* (The Lion Dance)", which included *shishi no kurui* (lion's *keburi*, or swirling of the long mane). At the request of the Agency for Cultural Affairs, the program also included a cross-cultural performance. At the curtain call, the *keburi* was performed to local music. That took the audience by surprise and was wildly received in every theater. The lecture on *onnagata* also included audience participation in theatrical expression of emotions like crying and laughing. Audiences participated enthusiastically and seemed to have thoroughly enjoyed the experience.

キューバ公演『石橋』
"*Shakkyo*" performance, Cuba

（写真提供：ホルヘ・クリストバル）
(Photo courtesy: Jorge Cristobal)

In the lecture, I told the audience through an interpreter that Kabuki is not something to be watched in a solemn manner; audiences are most welcome to clap their hands and shout out to the actor at any moment that they feel that a performance is excellent or exciting. Because of this, audience in all places we visited called out vigorously to the actor, showing that they were really enjoying themselves.

At University of Michigan, I gave a 60-minute lecture on how to depict the love between a man and woman in Kabuki. In Cuba, I held a forum with students of the Instituto Superior de Arte. As I observed them watching the performance with keen interest, I could sense their deep understanding of other cultures.

I am proud to have played a role through that experience in conveying a little taste of the charm of Kabuki. Furthermore, as a Japan Cultural Envoy, it has been a great pleasure to receive feedback from various places requesting a repeat performance. I believe this is solely due to the latent power of Kabuki built up by our forerunners. I could not help but feel this power during my stint as a Japan Cultural Envoy.

メキシコ公演終演後の記念撮影
Commemorative photo taken after performance, Mexico

三谷 純

筑波大学　教授

活動期間　2019年10月27日～12月22日
活動国　中国，フィリピン，マレーシア，バングラデシュ，インド，タイ，ミャンマー，ベトナム

MITANI Jun

Professor of University of Tsukuba

Period of the activities:　From October 27 to December 22, 2019
Countries visited:　China, the Philippines, Malaysia, Bangladesh, India, Thailand, Myanmar, Vietnam

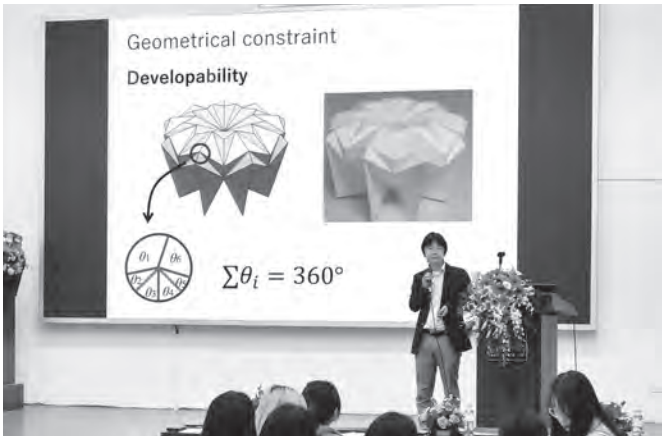
進化する折り紙の文化

我が国の伝統的な文化の一つである「折り紙」を通して，アジア８か国で文化交流活動を行ってきました。

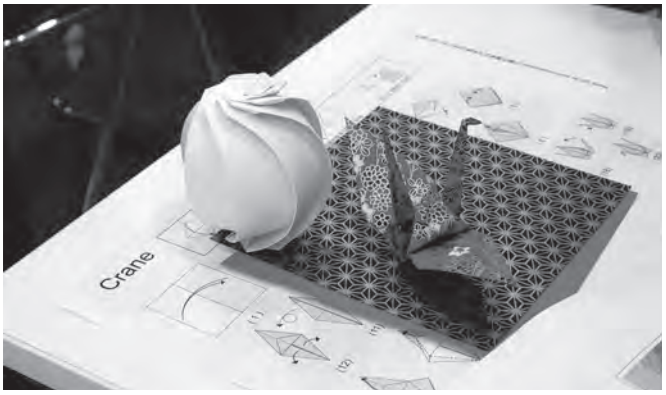
私は，これまでに曲面を持つ折り紙の設計や制作を通して，折り紙の新しい分野の開拓に注力してきましたが，そもそもはコンピュータサイエンス分野の大学教員です。そのため訪問先での活動は，講演とワークショップおよび作品展示が主なものとなりました。

講演では，折り紙の歴史と工学分野での応用の話，そして折り紙設計の話などをしました。訪問先の大学や高校，美術館などでは，多くの方が折り紙の新しい可能性に興味を持ち，たくさんの質問をしてくれました。ワークショップでは，伝承的な折り鶴の作成とともに，曲線折り紙の体験をしてもらいました。ほとんどの参加者が折り鶴は知っていても，曲線で折る折り紙は初めてということで，和気あいあいと楽しんでくれました。

しかしながら，活動を始めたばかりのころは，私のようなものが文化交流使を引き受けてよいのか，という葛藤がありました。私よりも経験豊富で，折り紙についても詳しい適任者がいるのではないかと思ったのです。それでもしばらくすると，私が引き受けてよかった，と思えるような新しい気付きがありました。折り紙は，現在まさに進化の過程にある文化だということです。



講義風景。大学などでは,1枚の紙から作ることができる立体の幾何的な条件なども説明しました
A photo of lecture. I explained the geometric conditions for creating a three-dimensional object from a piece of paper at a university



ワークショップでは和紙で折り鶴を作ったり，丸い形を1枚の紙から作る体験をしてもらいました
At the workshop, participants made folded paper cranes using Japanese paper and folded a square piece of paper into a round shape

もちろん，文化は時代とともに変化するものですが，折り紙は今，驚くほどの早さで変化し，進化しています。1980年代に「折り紙を設計する」というアイデアと技法が生み出されてからは，それまでと次元の違う複雑で斬新な折り紙の世界が登場しました。そしてそれはインターネットの普及とともに世界中に広がりました。現在では，世界各地で折り紙のコミュニティが作られ，互いに技を競い合っています。それでもなお日本の折り紙は，そのレベルの高さや層の厚さで一目置かれています。だからこそ，従来の概念にとらわれない，数学やコンピュータを駆使した，変で新しい折り紙を，今の日本の折り紙の一例として紹介することは，きっと意味があるのだろうと思うようになりました。

この事業を通し，多くのことを学び，得難い経験をしました。反省する点も多々あるのですが，できることを精いっぱいやり切った満足感を持っています。期間中，活動を支えてくださった多くの方々に，心より感謝いたします。

Evolving Culture of *Origami*

I was involved in the cultural exchange activities in eight countries in Asia through *origami* paper folding, one of the cultural traditions of Japan.

I have focused on opening up new areas of *origami* through the designing and making of *origami* pieces with curved surfaces. However, in the first place, I am a university professor in the area of computer science. Accordingly, my activities as a Japan Cultural Envoy have mainly involved lectures, workshops, and exhibitions of my *origami* works.

In the lectures, I have discussed the history of *origami*, its application in the area of engineering, and its designing. In the universities, high schools, and art museums that I visited, many participants showed their interest in the new possibility of *origami* and asked many questions. In the workshops, they gained experience in making *origami* pieces with curved fold lines in addition to traditional pieces. It was the first time for almost all the participants to fold *origami* with curved lines, although they had known *orizuru*, or *origami* cranes. They enjoyed the session in a happy and friendly atmosphere.

When I started the above activities, however, I had a hard time wondering if it was OK for a person like me to accept the role of a Japan Cultural Envoy.

I felt that there were people who were more experienced, appropriate, and knowledgeable about *origami* than I was. However, after a while, I realized something that made me think it was good that I accepted the offer; that *origami* is a culture that is in the process of evolution.

Needless to say, a culture changes with time, but currently, *origami* is changing and evolving at a surprising speed. When the idea and technique of "designing *origami*" was developed in the 1980s, a complex, innovative, and totally different world of *origami* appeared, which spread instantly over the world with the expansion of the Internet. Now, *origami* communities have been built in various places in the world, competing with each other over their skills. Still, Japanese *origami*'s superiority is well acknowledged because of its high level and the fact that it is enjoyed by a wide range of people. Now, I think that it is meaningful to present to people new and unique *origami* pieces, created by making full use of mathematics and computers and being free from the conventional concept, as the examples of today's Japanese *origami*.

I have learned a lot and gained rare and valuable experience in this project. There are many things that I think I should have done differently, but I also have a sense of satisfaction that I did the work to the best of my ability. I would like to take this opportunity to express my sincere appreciation to everyone who supported my activities during the project.

ワークショップの後はみんな笑顔になります（タイ・ウドンターニーにて）
Participants smile after a workshop (in Udon Thani Province, Thailand)

森 隆宏

盆栽師

活動期間　2019 年 7 月 17 日～ 9 月 14 日
活動国　カナダ，アメリカ，オーストラリア，シンガポール

MORI Takahiro

Bonsai Master

Period of the activities: From July 17 to September 14, 2019
Countries visited: Canada, the United States of America, Australia, Singapore

自然が育てた文化　盆栽

「盆栽」での文化交流使は私で 3 人目。今の私だからできることを模索し，技術や知識の伝授だけでなく，もっと盆栽の世界を感じてもらいたい。交流使拝命から活動に入るまで，活動を続ける中でも，その想いとともに挑戦の日々を過ごしました。世界各地で市民権を得ている盆栽。海外で店を構える方も多くいます。各都市には愛好家団体があり，会員数 100 名を越える団体もあります。ただ，団体の多くが，「若者にもっと参加してもらいたい」という日本と同じ課題を抱えていました。「盆栽は年配者の娯楽」という実態は，世界共通なのかもしれません。

本活動で私自身が設けた使命は，「盆栽で講演を行う」。文化施設，教育施設，研究施設といった場で，まだ盆栽と接点のない若い世代，働く世代に対し，盆栽の魅力をお伝えし，業界に新たな風を送り込む活性化を図りたい。

夏季 2 か月の活動期間。目標としていた大学での講演は長期休暇と重なり果たせませんでしたが，訪問した 8 都市全てで講演を開催。愛好家ではない方々に向けて盆栽基礎知識から職人の思考まで，幅広くお話する機会をいただきました。講演後には実演を披露。予備知識からの実演という連動もあり，多くの方が盆栽を身近に感じていただく時間になったと実感しています。

現地の庭木を盆栽に改作する実演。JICCにて
Demonstrating how to transform local garden plants into *bonsai* at JICC

植物が育てば盆栽も育つ。しかし気候や生活環境の違いなど日本とは異なる風土で暮らす人々にいかに親しみを感じてもらえるか。それは，盆栽の魅力だけでなく，日本人の精神をお伝えすることも，非常に大切なことであり，私にとっても初心に立ち返る意義ある内容でもありました。「盆栽職人は黒子である」。親方から受け継いだ教えで，盆栽が主役であって，職人は一時期の責任を持って携わる裏方の存在。盆栽に対して謙虚でいなければならない。

盆栽で言う謙虚とは，四季の変化や自然への畏怖とともに紡いだ風土の中に養われた美しい姿です。謙虚とは尊重であり，調和です。そんな日本の美しい心は美しい文化，盆栽を育てました。異国での活動にあたり，その国の風土や文化を尊重し，日本から運ばれた盆栽はそこで暮らす人々と調和する。長年築き上げた互いの文化と盆栽を通した交流の上に本活動の成功があり，尽力していただいた全ての皆様へ改めて感謝を申し上げたいと思います。そして，この活動が次世代へ継続されていくことを願います。

巨大な杉の盆栽の作業風景。Nikkei Centreにて
Working with a huge cedar *bonsai* at Nikkei Centre

Culture Raised by Nature — Japanese *Bonsai* (Tray Planting)

植物園スタッフを対象に実演。ガーデンズバイザベイにて
Demonstrating for botanical garden staff at Gardens by the Bay

I am the third Japan Cultural Envoy for *bonsai*. I want to pass on my techniques and expertise while familiarizing others with the world of *bonsai* and realizing the best of my potential. Keeping this in mind, I have been taking on challenges from the moment I was appointed with such duties and responsibilities up until today. *Bonsai* has earned recognition around the world and many practitioners have studios overseas. There are groups of *bonsai* aficionados in major cities with some having more than 100 members. Yet, many of these groups share our same concern: they want greater involvement from the younger generation. The idea that "*bonsai* is a hobby for the elderly" seems to be a common understanding in the world.

My mission for this program is to "give lectures with *bonsai*." I want to make the attractiveness of *bonsai* more appealing to the younger and working generations, who have no personal experience with *bonsai*, at various venues, such as cultural, educational, and research institutes to reshape the industry by driving change.

During two months of activity in summer, lecturing at universities as my main purpose was not realized because it just happened to be summer vacation. Regardless, I gave lectures in all eight cities I visited and had the opportunity to cover various topics for non-aficionados, from the basic knowledge to the philosophy of *bonsai* craftsmen. I gave a demonstration after each lecture. I thought that demonstrations could provide time for people to become familiar with *bonsai* after receiving background information.

Bonsai grows as plants grow. How can I help them feel familiar with *bonsai* when they live in a culture and climate different from Japan? Conveying Japanese spirit as well as the attractiveness of *bonsai* is very important. This helped me go back to the basics, which meant a lot to me. "*Bonsai* craftsmen should stay behind the scenes." This is the teaching handed down by my master. It means that *bonsai* is the leading actor and the craftsman is a stagehand with a limited-time responsibility. So, one should be modest in growing *bonsai*.

Here, modesty presents beautiful attitudes nurtured in the climate spun with four distinct seasons and in awe of nature. Modesty means respect and harmony. The beautiful spirit of Japan nurtures the beautiful culture of *bonsai*. In working overseas, we should respect the local culture and climate, and then the *bonsai* brought from Japan can become harmonized with the local people. This program has been successful thanks to every relevant culture built over the years and the cultural exchange through *bonsai*. Again, I would like to thank all those who have worked hard for this program, and I hope that it will be continuously handed down through future generations.

幅広い層の参加者を前に講演。JAPAN HOUSE LAにて
Giving a lecture to a diverse audience at JAPAN HOUSE LA

◎ 編集について
・文化交流使による活動報告は，筆者本人の表現を尊重しており，公文書上の表記方法等とは異なる場合があります。

◎ Note
- We respect the right of Japan Cultural Envoys to express themselves individually in presenting these activity reports, so please be aware that the terminology used may not necessarily follow official guidelines.

文化庁文化交流使一覧

文化庁文化交流使一覧 2021年5月現在

※派遣型は派遣順となっています。*印は，次年度も引き続き活動

「文化交流使」には6つのカテゴリーがあります。

1. 長期派遣型 日本在住の芸術家，文化人等が諸外国に一定期間（1か月～12か月）滞在し，それぞれの専門分野で講演，講習や実演，デモンストレーション等を行います。（平成27年度～）

2. 東アジア文化交流使 日中韓文化大臣会合での合意等に基づき，日本在住の中堅・若手の芸術家，文化人等が中国，韓国等の東アジア諸国に一定期間（1週間から2週間程度）滞在し，それぞれの専門分野での講演，講習や実演，デモンストレーション等を行います。（平成26年度～）

3. 海外派遣型 日本在住の芸術家，文化人等が諸外国に一定期間（1か月～12か月）滞在し，それぞれの専門分野で講演，講習や実演，デモンストレーション等を行いました。（平成15年度～平成26年度実施）

4. 短期指名型 国際芸術交流支援事業により海外で公演等を行う芸術団体等が，現地の学校等で実演会，演奏会等を行い，日本文化の普及活動を行いました。（平成20年度～平成25年度実施）

5. 現地滞在者型 海外在住の芸術家，文化人がその滞在国で，それぞれの専門分野で講演，講習や実演デモンストレーション等を行いました。（平成15年度～平成21年度実施）

6. 来日芸術家型 公演等で来日する諸外国の著名な芸術家，文化人が，日本滞在期間を利用して学校等を訪問し，実演，講演等を行いました。（平成15年度～平成19年度実施）

平成15年度（2003年）

〈海外派遣型 ── 12名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
三浦 尚之（なおゆき）	音楽プロデューサー	アメリカ	平成15年7月20日～9月1日
渡辺 洋一	和太鼓奏者	アメリカ	平成15年8月15日～9月6日
田中 千世子	映画評論家	ヨルダン，スロバキア，アイスランド，ハンガリー	平成15年8月15日～12月9日
小山内（おさない） 美江子	脚本家	カンボジア	平成15年8月20日～9月24日
梅林 茂	作曲家	イタリア	平成15年8月27日～11月8日
国本 武春*	浪曲師	アメリカ	平成15年9月12日～平成16年8月10日
バロン吉元	漫画家	スウェーデン	平成15年9月22日～11月21日
三谷 温（おん）*	ピアニスト	クロアチア	平成15年9月27日～平成16年5月14日
笑福亭 鶴笑（かくしょう）*	落語家	タイ，イギリス	平成15年12月1日～平成16年1月15日，平成16年3月30日～平成17年3月29日
小宮 孝泰*	俳優	イギリス	平成16年1月16日～5月11日
平野 啓一郎*	作家	フランス	平成16年2月28日～平成17年2月27日
四方田（よもた） 犬彦*	映画評論家	イスラエル，セルビア，モンテネグロ（派遣時：セルビアモンテネグロ）	平成16年3月15日～12月20日

〈現地滞在者型 ── 4名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
高岡 美知子*	答礼人形研究家	アメリカ	平成16年3月1日～平成17年2月28日
松本 直（なお）み*	舞台照明研究家	フィリピン	平成16年3月1日～平成17年2月28日
ラーシュ・ヴァリエ*	詩人，スウェーデン議会国際課長	スウェーデン	平成16年3月1日～平成17年2月28日
ローチャン由理子*	画家	インド	平成16年3月1日～平成17年2月28日

〈来日芸術家型 ── 5組〉

氏　名／団体名	プロフィール	在住国	活動期間	活動場所
ソレダット	タンゴ・クインテット	ベルギー	平成15年10月15日	代々木高等学院
ケント・ナガノ	指揮者	アメリカ	平成15年10月30日	品川区立立会小学校
ルノー・カプソン	ヴァイオリニスト	フランス	平成16年1月7日	東村山老人ホーム
クリスティアン・アルミンク	新日本フィールハーモニー交響楽団音楽監督	オーストリア	平成16年1月14日	墨田区立両国中学校
ディビット・パイヤット	ホルン奏者	イギリス	平成16年3月15日	福岡市立舞鶴中学校

平成16年度（2004年）

〈海外派遣型 ── 5名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
北村 昭斎（しょうさい）	重要無形文化財「螺鈿」（各個認定）保持者	ドイツ	平成16年6月2日～7月10日
杉本 洋（ひろし）	日本画家	カナダ	平成16年9月1日～11月30日

橋口 譲二*	写真家	ドイツ	平成16年12月13日～平成17年12月12日
井上 廣子(ひろこ)*	造形作家	オーストリア	平成17年1月10日～平成18年1月9日
宮田 まゆみ	笙演奏家	ギリシャ, イタリア, フランス, ドイツ, ルクセンブルク	平成17年2月1日～2月28日

〈来日芸術家型 ── 5組〉

氏　名／団体名	プロフィール	在住国	活動期間	活動場所
イシュトヴァーン・コロッシュ	オルガニスト	ハンガリー	平成16年6月12日	桜美林大学
エムパイヤ・ブラス	金管五重奏	アメリカ	平成16年6月14日	神戸市立港島小学校
フランソワー・ルルー	オーボエ奏者	フランス	平成16年10月5日	長崎市立山里小学校
カール・ライスター	クラリネット奏者	ドイツ	平成16年10月19日	名古屋市立見付小学校
デニス・マトヴィエンコ	バレエダンサー	ウクライナ	平成17年3月3日	品川女子学院高等部

平成17年度（2005年）

〈海外派遣型 ── 5名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
河村 晴久	能楽師	アメリカ	平成17年4月14日～5月25日
村井 健(けん)	演劇評論家	ロシア	平成17年5月3日～6月9日
神田 山陽(さんよう)*	講談師	イタリア	平成17年9月1日～平成18年8月31日
平田 オリザ	劇作家, 演出家	カナダ, アメリカ	平成18年1月3日～3月31日
Ikuo 三橋(みつはし)*	演出家	フランス, ベルギー, モロッコ, マダガスカル, フィンランド, ブラジル	平成18年1月15日～12月14日

〈現地滞在者型 ── 2名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
杉 葉子	女優	アメリカ	平成17年5月2日～10月31日
本名(ほんな) 徹次*	指揮者	ベトナム	平成17年11月17日～平成18年11月16日

〈来日芸術家型 ── 6組〉

氏　名／団体名	プロフィール	在住国	活動期間	活動場所
オクトバス4	コントラバス四重奏	イタリア	平成17年6月15日	東京国際学園高等部
アンヘル・コレーラ	バレエダンサー	スペイン	平成17年7月24日	六本木ヒルズ
ソレダッド	タンゴ・クインテット	ベルギー	平成17年7月25日	愛知県立明和高等学校
10人のミラクル・トランペッター TEN OF THE BEST	トランペット・アンサンブル	ドイツ	平成17年12月11日	秋田県立勝平養護学校
ラルス・フォークト	ピアニスト	ドイツ	平成18年2月6日	東京都立芝商業高等学校
日豪ジャズオーケストラ参加 オーストラリア・ミュージシャン	ジャズオーケストラ	オーストラリア	平成18年3月20日	広島県立尾道北高等学校

平成18年度（2006年）

〈海外派遣型 ── 9名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
寺内 直子	神戸大学教授 日本の宮廷音楽・雅楽の研究及び演奏	アメリカ	平成18年8月28日～平成19年3月30日
源田 悦夫	九州大学教授メディア芸術・情報デザイン	中国, 韓国	平成18年8月31日～10月25日

川井 春香	華道家	スウェーデン, スペイン, イタリア, フランス	平成18年9月12日～12月15日
勝美 巴湖*	日本舞踊家	イギリス	平成18年12月26日～平成19年7月15日
坂手 洋二*	劇作家, 演出家	アメリカ, フランス, ドイツ	平成19年2月5日～4月13日
桂 小春團治	落語家	アメリカ	平成19年2月6日～3月10日
豊澤 富助	人形浄瑠璃文楽	イギリス, ドイツ, スイス, イタリア	平成19年2月26日～3月28日
寺井 栄*	能楽師（能楽観世流シテ方）	オーストラリア	平成19年3月5日～5月30日
小林 千寿*	囲碁棋士	オーストリア, スイス, ドイツ, イギリス, フランス, ブルガリア, チェコ	平成19年3月14日～平成20年3月13日

〈現地滞在者型 ── 1名〉

氏　名／団体名	プロフィール	活動国	活動期間
大坪 光泉*	華道家	中国	平成18年9月15日～平成19年9月14日

〈来日芸術家型 ── 9組〉

氏　名／団体名	プロフィール	在住国	活動期間	活動場所
アドリエル・ゴメス・マンスール	ピアニスト	アルゼンチン	平成18年4月24日	大分県日出町立日出小学校
オクトバス4	コントラバス四重奏	イタリア	平成18年6月20日	NPO楠の木学園（横浜）
ジョン・ナカマツ	ピアニスト	アメリカ	平成18年7月10日, 11日	新潟県立新潟盲学校, 新潟県立上越養護学校
ペーター・シュミードル	クラリネット奏者	オーストリア	平成18年7月14日	北海道立真駒内養護学校
エミリー・バイノン	フルート奏者	オランダ	平成18年7月22日	上甑老人福祉センター
ヴォルフガング・シュルツ	フルート奏者	オーストリア	平成18年8月26日	草津町立草津中学校
オーブリー・メロー	舞台演出家, オーストラリア国立演劇学校校長	オーストラリア	平成18年9月28日	東京都立富士高等学校
ツェンド・バットチョローン	モンゴル国立馬頭琴交響楽団芸術監督・指揮者	モンゴル	平成18年10月13日, 20日	相模原市立若松小学校, 板橋区立志村第四小学校
フランツ・リスト室内管弦楽団	管弦楽団	ハンガリー	平成19年1月18日	北海道帯広養護学校

平成19年度（2007年）

〈海外派遣型 ── 9名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
立松 和平	作家	中国	平成19年4月27日～5月26日
三浦 友馨	華道家	中国	平成19年8月1日～9月28日
名嘉 睦稔	画家	韓国, フランス, スペイン	平成19年8月30日～11月13日
本間 博*	将棋棋士	フランス, イギリス, ドイツ, スペイン, モナコ	平成19年8月30日～平成20年5月29日
中村 享	盆栽作家	カナダ	平成19年9月5日～10月6日
円田 秀樹*	囲碁棋士	ブラジル, チリ, アルゼンチン, メキシコ, コロンビア, エクアドル, ベネズエラ, コスタリカ, ペルー, ウルグアイ, マダガスカル, 南アフリカ	平成19年10月2日～平成20年7月1日
湯山 東	画家	フランス, チェコ, ドイツ	平成19年11月2日～12月19日
桂 かい枝*	落語家	アメリカ	平成20年3月31日～10月1日
橘 右門*	寄席文字書家	イギリス, ドイツ, ハンガリー	平成20年3月31日～平成21年2月16日

〈来日芸術家型 ── 7組〉

氏名／団体名	プロフィール	在住国	活動期間	活動場所
セルゲイ・ナカリャコフ	トランペット奏者	フランス	平成19年4月17日	大分県日田市立桂林小学校
ファジル・サイ	ピアニスト	トルコ	平成19年7月11日	渋谷区立小学校

イアン・バウスフィールド	トロンボーン奏者	イギリス	平成19年7月14日	札幌市立札幌小学校
チェコ少年少女合唱団	合唱団	チェコ	平成19年7月30日	北九州市立穴生中学校
アントニー・シビリ	ピアニスト	アメリカ	平成19年8月23日	群馬県立西邑楽高等学校
イングリット・フリッター	ピアニスト	イタリア	平成19年9月29日	滝乃川学園一橋大学
ニコラ・ルーツェヴィチ	チェロ奏者	クロアチア	平成20年3月18日, 19日	北海道音更高校中札内文化創造センター

平成20年度（2008年）

〈海外派遣型 ── 8名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
島田 雅彦	作家	アメリカ, 韓国	平成20年7月1日～平成21年3月31日
千 宗屋*	茶道家	アメリカ, フランス, イタリア, ドイツ, メキシコ, ベルギー	平成20年7月31日～平成21年6月30日
梅若 猶彦	能楽師（シテ方）, 静岡文化芸術大学教授	フィリピン	平成20年8月2日～9月8日
小林 千寿	囲碁棋士	フランス, オーストリア, ドイツ, イギリス	平成20年8月27日～平成21年3月26日
中川 衛	重要無形文化財「彫金」（各個認定）保持者	アメリカ	平成20年9月8日～10月20日
常磐津 文字兵衛	常磐津三味線奏者, 作曲家	韓国	平成20年9月27日～10月27日
福田 栄香（千栄子改め）	地歌箏曲演奏家	フィリピン, インドネシア, マレーシア	平成21年2月17日～3月16日
須田 賢司*	木工芸作家	ニュージーランド	平成21年3月22日～5月4日

〈現地滞在者型 ── 2名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
上野 宏秀山*	尺八奏者	シンガポール	平成21年2月1日～4月30日
ブーイ 文子*	茶道家	タイ, インド	平成21年2月1日～4月30日

〈短期指名型 ── 5組〉

団体名	分野	在住国	活動期間	備考
財団法人日本伝統文化振興財団	狂言	インドネシア	平成20年9月3日, 5日	山本東次郎家, 狂言公演
舞踊集団菊の会	舞踊（邦舞）	ブラジル	平成20年9月16日, 25日	
太神楽曲芸協会	太神楽曲芸	カンボジア	平成20年12月3日	
鬼太鼓座	和太鼓	ブラジル	平成20年12月16日	
大歌舞伎「NINAGAWA十二夜」ロンドン公演実行委員会	歌舞伎	イギリス	平成21年3月26日	

平成21年度（2009年）

〈海外派遣型 ── 10名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
有野 芳人	将棋棋士	中国	平成21年5月27日～8月9日
青木 紳一	囲碁棋士	オランダ, オーストリア, ドイツ, スロバキア	平成21年7月24日～12月27日
喜瀬 慎仁	三線奏者	フィリピン, 中国, フランス, ドイツ, イギリス	平成21年8月1日～平成22年1月31日
鶴賀 若狭掾	重要無形文化財「新内節浄瑠璃」（各個認定）保持者	イギリス, アイルランド, オランダ, ベルギー	平成21年9月14日～10月29日
竹本 千歳大夫	人形浄瑠璃文楽	チェコ, ドイツ, オーストリア	平成21年9月24日～10月24日
蜂谷 宗苾	香道家元後継者	フランス, 中国, イタリア, ドイツ, アメリカ, ルクセンブルク, フィンランド	平成21年9月30日～平成22年3月24日
武関 翠篁	竹工芸家	ドイツ	平成21年10月11日～11月17日

伊部 京子	和紙造形家	アメリカ, エジプト	平成21年11月3日～平成22年3月3日
久保 修	切り絵画家	アメリカ	平成21年12月30日～平成22年3月26日
三橋 貴風	尺八演奏家	韓国, ブラジル	平成22年2月5日～3月23日

〈現地滞在者型 ── 1名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
澤崎 琢磨	和太鼓奏者	パラグアイ, ブラジル	平成21年8月1日～10月31日

〈短期指名型 ── 5組〉

団体名	分野	活動国	活動期間	備考
NPO法人和文化交流普及協会	伝統芸能（獅子舞, 津軽三味線, 和太鼓等）	ウルグアイ	平成21年9月7日, 8日	
猿楽會	狂言	オーストリア	平成21年10月13日	
社団法人落語芸術協会	落語	カンボジア	平成21年11月25日	
株式会社オフィスK2	和太鼓	ウズベキスタン	平成22年1月23日, 24日, 26日	和太鼓「婢弥鼓」
ミュージック・フロム・ジャパン推進実行委員会	雅楽	アメリカ	平成22年2月22日	

平成22年度（2010年）

〈海外派遣型 ── 12名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
黛 まどか	俳人	フランス, イギリス, ルーマニア, ベルギー, ハンガリー, ドイツ	平成22年4月24日～平成23年3月25日
いわみ せいじ*	漫画家	シンガポール, マレーシア, 韓国, イギリス	平成22年8月4日～平成23年7月31日
藤間 万恵*	日本舞踊家	中国	平成22年9月4日～平成23年7月16日
佐々木 康人	華道家	ベトナム, シンガポール, タイ, マレーシア	平成22年9月9日～11月14日
蓑輪 敏泰	和太鼓奏者	メキシコ	平成22年9月20日～10月26日
笑福亭 銀瓶	落語家	韓国	平成22年9月30日～10月31日
山村 浩二	アニメーション作家	カナダ	平成22年11月12日～12月19日
安田 泰敏	囲碁棋士	オーストリア, スイス, フランス, ロシア, ヨルダン, イスラエル, モロッコ	平成22年11月15日～平成23年2月28日
野田 哲也	版画家	イスラエル, イギリス	平成22年12月3日～平成23年1月17日
山内 健司	俳優	フランス, ベルギー, ルクセンブルク	平成23年1月7日～3月31日
澤田 勝成	津軽三味線奏者	中国	平成23年2月20日～3月20日
津村 禮次郎*	能楽師	ロシア, ハンガリー	平成23年2月24日～4月9日

〈短期指名型 ── 4組〉

団体名	分野	活動国	活動期間
一般社団法人日本伝統芸術国際交流協会	沖縄舞踊	メキシコ	平成22年10月19日
財団法人日本余暇文化振興会	津軽三味線	メキシコ	平成22年10月23日
有限会社アトリエ・アサクラ	日本舞踊	韓国	平成22年10月28日, 29日, 11月1日, 2日
金春流能ドイツ巡回公演実行委員会	能	ドイツ	平成23年1月20日, 28日

平成23年度（2011年）

〈海外派遣型 ── 6名・1グループ〉

氏　名／グループ名	プロフィール	活動国	活動期間
真鍋 尚之（なおゆき）*	雅楽演奏家, 作曲家	ドイツ, フランス, オーストリア, スウェーデン, ロシア, ベルギー, オランダ, イタリア, スイス, ベラルーシ, チェコ, セルビア	平成23年5月14日～平成24年5月13日
時友（ときとも） 尚子（ひさこ）	染色家	エストニア, ラトビア, リトアニア, フィンランド	平成23年10月26日～11月25日
薄田 東仙（とうせん）	書道家, 刻字家	イスラエル	平成23年10月27日～12月4日
辰巳 満次郎*	能楽師	韓国	平成24年1月9日～4月19日
AUN（井上良平, 井上公平, 齋藤秀之）	和楽器奏者	タイ, ラオス, ベトナム, カンボジア	平成24年1月21日～2月25日
塩田 千春	現代美術家	オーストラリア	平成24年2月7日～3月7日
佐佐木（ささき） 幸綱（ゆきつな）*	歌人	ドイツ, ポーランド, スイス, フランス, オランダ	平成24年3月8日～6月4日

〈短期指名型 ── 3組〉

団体名	分野	活動国	活動期間
詁傳（こでん）の会	人形浄瑠璃文楽（素浄瑠璃）	ドイツ	平成23年9月26日
ミュージック・フロム・ジャパン推進実行委員会	雅楽	アメリカ	平成24年2月21日
特定非営利活動法人ACT.JT	伝統芸能, 大衆芸能	アメリカ	平成24年3月26日～28日

平成24年度（2012年）

〈海外派遣型 ── 8名・1グループ〉

氏　名／グループ名	プロフィール	活動国	活動期間
榎戸（えのきど） 二幸（ふゆき）	生田流箏曲	ドイツ, オーストリア, イギリス	平成24年5月28日～8月31日
うるまでるび（うるま, でるび）*	アニメーション・アーティスト	アメリカ	平成24年9月2日～平成25年8月31日
茂山 宗彦（もとひこ）*	大蔵流狂言師	チェコ, オーストリア, ルーマニア, リトアニア, ポーランド	平成24年10月3日～平成25年7月3日
矢崎 彦太郎	指揮者	アルジェリア	平成24年12月6日～平成25年3月16日
海老原（えびはら） 露巌（ろげん）	墨アーティスト, 書道家	イタリア	平成25年1月20日～2月23日
藤本 吉利（よしかず）	和太鼓奏者	中国	平成25年1月21日～2月21日
小島 千絵子	民俗舞踊家	スペイン, ポルトガル, ベルギー, イギリス	平成25年１月21日～3月11日
山路（やまじ） みほ*	箏曲演奏家	ロシア, ドイツ, イタリア, スイス, スロベニア, オーストリア, スロバキア, フィンランド, ラトビア, ハンガリー	平成25年1月27日～6月30日
大澤 奈留美*	囲碁棋士	アメリカ, ブラジル	平成25年3月14日～5月13日

〈短期指名型 ── 3組〉

団体名	分野	活動国	活動期間
黒森神楽（くろもりかぐら）アメリカ公演実行委員会	伝統芸能, 大衆芸能	アメリカ	平成24年10月31日
コンドルズ	舞踊	タイ	平成25年3月1日
公益財団法人せたがや文化財団	演劇	アメリカ	平成25年3月25日

平成25年度（2013年）

〈海外派遣型 ── 8名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
土佐 信道	明和電機社長, アーティスト	フランス	平成25年6月3日～7月11日

平尾 成志（まさし）	盆栽師	リトアニア, イタリア, フランス, オランダ, アメリカ, メキシコ, オーストラリア, ドイツ, トルコ	平成25年6月11日～10月24日
武田 双雲（そううん）	書道家	ベトナム, インドネシア	平成25年7月31日～8月31日
レナード 衛藤（えとう）*	和太鼓奏者	スイス, フランス, イタリア, チュニジア, ポルトガル, インド, オランダ, ドイツ, ハンガリー	平成25年8月8日～平成26年7月23日
森山 開次	ダンサー, 振付家	インドネシア, ベトナム, シンガポール	平成25年10月18日～12月3日, 平成26年1月4日～19日
挾土（はさど） 秀平	左官技能士	アメリカ	平成25年10月19日～11月30日
森山 未來（みらい）*	俳優, ダンサー	イスラエル, ベルギー, イギリス, スウェーデン, ドイツ, ロシア	平成25年10月21日～平成26年10月20日
長谷川 祐子*	キュレーター（学芸員）, 大学教授	アラブ首長国連邦, ドイツ, モロッコ, フランス, アメリカ, モナコ, アルメニア, ジョージア（派遣時:グルジア）, スウェーデン, ベルギー, イギリス, イタリア, 中国, チェコ, ハンガリー, スイス, ロシア, ポルトガル	平成26年3月12日～7月14日

〈短期指名型 ── 6組〉

団体名	分野	活動国	活動期間
藝○座（げいまるざ）	伝統芸能（日本舞踊）	スペイン	平成25年9月19日, 28日
チェルフィッチュ	演劇（現代演劇）	ギリシア	平成25年10月31日, 11月2日
小野雅楽会	伝統芸能（雅楽）	ロシア, ドイツ	平成25年11年12日, 14日, 18日
株式会社わらび座	舞踏（民族舞踊）	ベトナム	平成25年12月19日, 26日
山海塾	舞踊（舞踏）	インド	平成26年1月15日, 16日
声明の会・千年の聲	伝統芸能（宗教音楽）	アメリカ	平成26年3月7日

平成26年度（2014年）

〈海外派遣型 ── 8名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
中澤 弥子（ひろこ）	食文化研究者, 長野県短期大学教授	フランス, ドイツ, ポーランド, ハンガリー, イタリア, スロバキア, イギリス	平成26年8月10日～10月13日
林 英哲	太鼓奏者	アメリカ, トリニダード・トバゴ, キューバ	平成26年9月25日～11月4日
林田 宏之	CGアーティスト	クウェート, ヨルダン, レバノン, サウジアラビア, バーレーン, ベトナム, タイ	平成26年11月1日～12月14日
若宮 隆志	「彦十蒔絵」代表	イギリス, フランス, 中国	平成26年11月2日～12月3日
平野 啓子	語り部, かたりすと	ドイツ, トルコ	平成26年11月14日～12月15日
櫻井 亜木子	琵琶演奏家	エルサルバドル, ブラジル, アメリカ, イギリス, イタリア, スイス, アルバニア	平成27年1月7日～3月21日
岡田 利規	演劇作家, 小説家	中国, 韓国, タイ	平成27年1月12日～3月2日
山井 綱雄	金春流（こんぱる）能楽師	フランス, アメリカ, カナダ	平成27年2月1日～3月15日

〈東アジア文化交流使 ── 4名・1グループ〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
多田 淳之介	演出家	韓国	平成26年12月22日～29日
WASABI	新・純邦楽 ユニット	中国	平成27年1月3日～9日
池田 卓	音楽家	韓国	平成27年1月25日～2月1日
山田 うん	振付家, ダンサー	中国	平成27年3月9日～16日
柴 幸男	劇作家, 演出家	中国	平成27年3月16日～29日

平成27年度（2015年）

〈長期派遣型 ── 7名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
青木 涼子	能×現代音楽アーティスト	アイルランド, フランス, ドイツ, デンマーク, イギリス, ハンガリー, イタリア	平成27年6月20日～8月9日, 9月17日～11月1日
柳原 尚之	近茶流（きんさりゅうし）家,「柳原料理教室」副主宰	ニュージーランド, ブラジル, カナダ, アメリカ	平成27年7月29日～9月20日, 9月28日～11月8日
矢内原 美邦	振付家, 劇作家, 近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻准教授	シンガポール, マレーシア, 韓国, タイ, ミャンマー, ベトナム, アメリカ, インドネシア, フィリピン	平成27年8月22日～平成28年1月31日
畠山 直哉	写真家	メキシコ, インド, フランス	平成27年9月2日～平成28年2月10日
小野寺 修二	コンテンポラリーダンス, マイム,「カンパニーデラシネラ」主宰	ベトナム, タイ	平成27年12月15日～平成28年1月27日
藤田 六郎兵衛	能楽笛方 藤田流十一世宗家	イギリス, フランス, 韓国	平成28年2月23日～3月30日
吉田 健一*	「吉田兄弟」, 津軽三味線奏者	オランダ, スペイン, イタリア, ポルトガル	平成28年3月27日～5月25日*

〈東アジア文化交流使 ── 3名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
スズキ 拓朗	演出家, 振付家, ダンサー	韓国	平成28年2月15日～24日
楠木 早紀	競技かるた永世クイーン	中国	平成28年2月28日～3月7日
やなぎ みわ	美術作家, 舞台演出家	中国	平成28年3月2日～8日

平成28年度（2016年）

〈長期派遣型 ── 6名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
佐野 文彦*	建築家, 美術家	イタリア, デンマーク, ベルギー, フランス, オランダ, アイスランド, ドイツ, 韓国, マレーシア, フィリピン, 中国, インド, エチオピア, メキシコ, アメリカ, インドネシア	平成28年8月20日～平成29年5月10日
土佐 尚子*	アーティスト, 京都大学教授	イギリス, 韓国, フランス, アメリカ, シンガポール タイ, フィリピン, ニュージーランド	平成28年10月27日～平成29年4月30日
柳家 さん喬	落語家	アメリカ, カナダ	平成29年2月5日～3月6日
佐藤 可士和*	クリエイティブディレクター	アメリカ, イギリス, フランス	平成29年3月18日～4月17日
藤間 蘭黄*	日本舞踊家	アメリカ, チェコ, ウクライナ, ポーランド, ハンガリー, スロベニア, フランス, ロシア, ドイツ, イタリア	平成29年3月29日～7月25日
山田 うん*	振付家, ダンサー	イスラエル, ジョージア, エストニア, アルジェリア, イギリス, ベルギー, スペイン, スリランカ, マレーシア, オーストラリア, アメリカ	平成29年3月29日～9月30日

〈東アジア文化交流使 ── 6名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
笹本 晃	アーティスト	中国	平成28年11月3日～14日
村川 拓也	演出家	中国	平成28年11月8日～21日
宝生 和英	宝生流能楽師　第20代宗家	中国	平成28年12月5日～15日
久門 剛史	美術作家	中国	平成28年12月19日～24日
蓮沼 執太	音楽家	中国	平成29年1月9日～18日
長田 育恵	劇作家／演劇ユニット てがみ座 主宰	韓国	平成29年3月21日～28日

平成29年度（2017年）

〈長期派遣型 ── 5名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
増田 セバスチャン*	アートディレクター, アーティスト	オランダ, 南アフリカ, アンゴラ, アメリカ, ボリビア, ブラジル	平成29年9月21日～10月17日, 11月1日～12月19日, 平成30年1月2日～2月24日, 3月3日～4月1日
大友 良英	音楽家	アルゼンチン, チリ, ブラジル, メキシコ, アメリカ, イタリア, フランス	平成29年10月31日～12月13日, 平成30年2月1日～2月15日
種田 道一	金剛流能楽師	アメリカ, フランス, スペイン, イタリア, ハンガリー	平成30年1月20日～3月15日
鈴木 康広	メディアアーティスト, 武蔵野美術大学准教授, 東京大学先端科学技術研究センター客員研究員	アメリカ, カンボジア, ドイツ, アイスランド	平成30年2月12日～3月16日
本條 秀慈郎*	三味線演奏家	トルコ, アメリカ, イタリア, フランス, イギリス, ドイツ, チェコ, ロシア	平成30年3月12日～6月29日, 9月2日～10月17日

〈東アジア文化交流使 ── 3名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
万城目 学	小説家	韓国	平成29年12月14日～20日
藤原 ちから	批評家, BricolaQ 主宰	中国	平成30年1月11日～26日
モリ川 ヒロトー	映像クリエイター･音楽家･写真家･エッセイスト	韓国	平成30年3月4日～14日

平成30年度（2018年）

〈長期派遣型 ── 4名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
玉川 奈々福	浪曲師･曲師	イタリア, スロベニア, オーストリア, ハンガリー, ポーランド, キルギス, ウズベキスタン	平成30年5月27日～7月10日
田中 功起	アーティスト	アメリカ, スイス, ドイツ, ギリシャ, 中国, オランダ	平成30年7月1日～平成31年1月4日, 平成31年1月20日～25日, 1月30日～2月4日
笠松 泰洋	作曲家	エクアドル, アルゼンチン, チリ, ペルー, イギリス, オーストリア	平成30年11月13日～12月14日, 平成30年12月31日～平成31年2月6日, 3月2日～3月24日
米川 敏子	生田流箏曲･地歌 演奏家	カザフスタン, イギリス, ドイツ	平成31年2月21日～3月22日

〈東アジア文化交流使 ── 2名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
毛利 悠子	美術家	中国	平成30年12月3日～17日
水江 未来	アニメーション作家	韓国	平成31年1月11日～20日

令和元年度（2019年）

〈長期派遣型 ── 6名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
黒田 鈴尊	尺八奏者	中国, イタリア, ブラジル, フランス, ドイツ, ポルトガル	令和元年5月30日～7月28日
清水 利仲	両口屋菓匠 取締役顧問	スペイン, フランス, ドイツ	令和元年6月15日～7月15日
森 隆宏	盆栽師	カナダ, アメリカ, オーストラリア, シンガポール	令和元年7月17日～9月14日
田村 圭吾	京料理 萬重若主人, 全国芽生会連合会 監事	ニュージーランド, エルサルバドル, ハンガリー, 北マケドニア, レバノン, アラブ首長国連邦	令和元年8月26日～10月4日

三谷 純	筑波大学 教授	中国, フィリピン, マレーシア, バングラデシュ, インド, タイ, ミャンマー, ベトナム	令和元年10月27日～12月22日
中村 京蔵	歌舞伎俳優	アメリカ, キューバ, メキシコ	令和元年11月5日～12月4日

令和2-3年度（2020-2021年）

〈長期派遣型 ── 6名〉

氏　名	プロフィール	活動国	活動期間
太田 宗達	公益財団法人有斐斎弘道館代表理事, 有職菓子御調進所老松主人, 茶人, 工学博士	未定	未定
落合 陽一	メディアアーティスト	未定	未定
北村 明子	振付家・ダンサー, 信州大学人文学部 芸術コミュニケーション分野准教授	未定	未定
志田 真木	琉球舞踊家, 琉球舞踊重踊流二世宗家	未定	未定
藤舎 推峰	邦楽笛演奏家	未定	未定
吉川 壽一	SYOINGアーティスト	未定	未定

第 18 回 文化庁文化交流使フォーラム－文化庁文化交流使活動報告会－
主催：文化庁

The 18th Japan Cultural Envoy Forum
Organized by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan